

国際学部で学ぶための
履修ガイド

令和8年度版



宇都宮大学 国際学部

国際学部で学ぶための履修ガイド

目次

国際学部で学ぶための履修ガイド	1
1. 国際学部での履修について	2
1 国際学部国際学科において養成する人材像	2
2 履修に関する基本的な考え方	3
3 専門教育科目の特色	4
2. 留学とインターンシップ	9
1 国際学部から海外に飛びだそう！	9
2 海外体験の費用支援制度：とちぎグローバル人材育成プログラム	13
3 留学しながら4年間で卒業するモデル	14
3. 宇都宮大学で履修できるプログラムについて	16
4. 卒業研究や専門分野を視野に入れた履修方法～教員ごとのページ～	17
1 地域研究系	17
2 異文化理解・コミュニケーション系	31
3 国際協力・共生系	45
5. レポート／論文作成の際の注意事項（研究倫理）	66
6. 国際学部・国際学研究科倫理綱領・ガイドライン・問題事例	71
7. 進路を視野に入れた履修	73
1 就職	73
2 進学	76

1. 国際学部での履修について

21世紀が抱える課題はグローバル化の急速な進行により、非常に複雑なものになっています。資本の世界的展開、国際的な労働移動といったグローバル化と多文化化が急速に進む社会状況のなかで、格差の拡大、環境破壊、戦争・紛争、移民・難民問題、民族的・文化的衝突など前例のない課題が全世界的に生じています。また、企業の海外進出が加速する中、グローバルな視野から各地域の実情に対応した戦略を立案・実行する企業活動がより一層必要となっています。こうした変化を受けて、「多文化共生」を実現するために必要な知識、関心・意欲そして行動力を備える21世紀型グローバル人材（グローカル人材）の育成が、社会的に広く要請されるに至っています。「多文化共生」は、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの社会的・文化的違いを認めあい、地域の構成員として共に生きてゆくこと」を意味します。

1 国際学部国際学科において養成する人材像

- (1) 世界の様々な地域の国際的分野で活躍するために、多文化共生に関する専門的な知識・技術に加えてチャレンジ精神や行動力等を兼ね備えた、「グローバルな実践力」を持った人材を育成します。
- (2) 「グローバルな実践力」として身に付けることが必要な能力は、世界の様々な地域で見られる多文化共生に関する専門知識と共に、豊かなコミュニケーション能力や行動力・協調性などです。具体的には、次の①～④の能力としてまとめることができます。
 - ① 世界の様々な国と地域におけるグローバル化と多文化共生に関する現状と課題についての知識を有し、それらの問題構造を理解することができる（知識・理解）。
 - ② 多文化共生社会における諸課題について、その問題構造を踏まえつつ、異なる立場の人々への想像力や共感を土台として、学際的・多角的・専門的に考察し、価値選択や目標設定を行うことができる（思考・判断）。
 - ③ 世界の様々な国と地域で活躍する基盤としての複数言語運用能力とコミュニケーション能力を備える。さらに、自らの設定した課題に関する資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法を用いて比較考察的・批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えた研究成果を文章化し、また口頭で発表して生産的に議論し、課題解決のために実践的に行動することができる（技能・表現）。
 - ④ 異なる文化や社会の在り方を尊重しつつ、グローバル化する地域と世界の問題解決に積極的に関わろうとする21世紀型グローバル人材（グローカル人材）としての主体性と実践的な行動力を備える（関心・意欲）。

(3) 「グローバルな実践力」を持って、グローバル展開する製造業や国際協力などの国際的分野で活躍する人材を育成します。

2 履修に関する基本的な考え方

国際学部では、多文化共生に関わる社会科学と人文科学が一体化した体系的な教育プログラムを構築するとともに、コミュニケーション能力や行動力・協働性等の実践的な能力を修得するために、アクティブ・ラーニングを活用した少人数演習や海外経験学習、国際キャリア教育、外国語教育を重要視します。

具体的には、基盤教育科目（30 単位）と専門教育科目（96 単位）を履修します。

基盤教育科目では、社会人の素養と人間力の養成、専門教育科目で「グローバルな実践力」を養います。

専門教育科目の大きな特色は、次の3点です（図1 参照）。

- (1) 多文化共生の専門知識の体系化
- (2) 「コミュニケーション能力や海外での行動力の養成」を目的にして、少人数・融合型演習、国際キャリア教育や「アクティブ・ラーニング」科目を拡充
- (3) 外国語運用能力の強化

図1 グローバルな実践力を身につける教育システム



3 専門教育科目の特色

(1) 多文化共生の専門知識の体系化

専門科目は、多文化共生に関する人文科学と社会科学の科目を体系的に修得し、その実践力を身に付ける観点からカリキュラムが構成されています。96単位の構成は、基礎科目（30単位）、選択科目（グローバル専門科目：必修18単位、国際キャリア教育科目：必修4単位）、専門演習・実験・実習科目（必修4単位）、卒業研究準備演習（必修2単位）、卒業研究（必修8単位）からなります（表1参照）。上記に加えて、グローバル専門科目等を30単位以上取得します。グローバル専門科目は以下の3つの系（地域研究系、異文化理解・コミュニケーション系、国際協力・共生系）に分類されています。3つのすべての系から単位を取得する必要がありますが、2年時に選択した1つの系から8単位以上を取得することが義務付けられています。

このことによって、多文化共生に関する幅広い知識と理解・分析力の習得が可能になります。その上で、選択した系の科目を集中的に受講することで専門知識が習得できます。各系とグループのグローバル専門科目は、表2の通りです。

表1 4年間のカリキュラム：科目と系

科目区分等		1年次	2年次	3年次	4年次	必要単位数	
基礎科目	多文化共生 コア科目	国際関係論 異文化間コミュニケーション Global Civil Society				6単位必修	
	多文化共生 基礎科目	Comparative Study of Culture 言語学 文化人類学 芸術文化論 国際法 国際政治論 国際経済論 国際社会論				8単位必修	左記とは別に 30単位以上
	専門外国語 科目	英語・フランス語・中国語・ 韓国朝鮮語・スペイン語				16単位必修	
選択科目	グローバル 専門科目	地域研究系				18単位必修 (選択した系 から8単位以 上を含めて、 全ての系から 単位を取得す る)	
		異文化理解・コミュニケーション系					
		国際協力・共生系					
	国際キャリア 教育科目	国際キャリア実習・海外フィールドワーク演習・他				4単位必修	
専門演習・実験実 習科目				専門演習・ 実験実習科 目		4単位必修	
卒業研究 関連科 目				卒業研究 準備演習	卒業研究 I・II	10単位必修	

表2 グローバル専門科目の系と科目一覧

系	科 目
地域研究系	<p>民族誌学、アジアの歴史と思想、近現代中国論、中国文化論、中東地域研究、フランス文化論、イギリス文化論、イギリス文学史、アメリカ文化論、アメリカ文学史、Introduction to Latin American Studies、Latin American Politics and Society、日本文化論、日本史概説、日本語史、Japan's International Relations、地域社会論、日本史特講、地域福祉論、社会福祉学概論、福祉社会学、地方自治論</p> <p>地域研究専門研究（海外体験）Ⅰ・Ⅱ 地域研究専門研究（海外体験・英語）Ⅰ・Ⅱ</p>
異文化理解・コミュニケーション系	<p>哲学概論、表象文化論、国際事象の実証分析、Cultures of the English-Speaking World、公共政策入門、行政学、社会調査法入門、観光概論、観光地理学、世界の歴史と文化、Phonetics and Phonology、Learning a Different World through English、英語学特殊講義 A、英語学特殊講義 B、日本語論、対人コミュニケーション論</p> <p>異文化理解・コミュニケーション専門研究（海外体験）Ⅰ・Ⅱ 異文化理解・コミュニケーション専門研究（海外体験・英語）Ⅰ・Ⅱ</p>
国際協力・共生系	<p>Theory of Global Governance、環境と国際協力、国際協力論、途上国経済発展論、グローバル化と外国にルーツを持つ子どもの教育、Intercultural Education、International Humanitarian Law in Theory and Practice、アフリカ論、ジェンダー論、多文化共生教育、人の国際移動、International Protection of Human Rights、国際機構論、地球環境政策論、ミクロ経済学、マクロ経済学、財政学、Global Political Economy、Disaster Studies</p> <p>国際協力・共生専門研究（海外体験）Ⅰ・Ⅱ 国際協力・共生専門研究（海外体験・英語）Ⅰ・Ⅱ</p>

(2) コミュニケーション能力や海外での行動力の強化

国際学部は、グローバル専門科目のうち、英語開講科目を少なくとも6単位を履修することによって、英語力とコミュニケーション能力を向上させます。さらに「コミュニケーション能力や海外での行動力を強化すること」を目的にして少人数・融合型演習や国際キャリア教育拡充のための「アクティブ・ラーニング」科目を開設しています。

「多文化公共圏実践演習」(グローバル) 「多文化公共圏実践演習」(グローバル)	学内外、国内外の教員、講師が協働するアクティブ・ラーニングで、多文化の諸相を主体的に把握し、よりよい世界を構築する行動力を持つグローバル、グローバル人材の基礎を学びます。
「海外フィールドワーク演習」Ⅰ・Ⅱ	国内外の国際協力の現場体験等を通して国際的分野におけるキャリア形成への意欲とグローバルな実践力の強化を目指します。

海外留学、海外の大学でその国の言語と文化を学ぶ科目としては、以下の科目を強力に推奨します。

- 「外国語臨地演習」(英語他6科目)
- 「国際キャリア実習」(海外インターンシップ、海外での短期間職業体験)
- 「海外フィールドワーク演習」Ⅰ・Ⅱ(海外での一次資料収集・関係者へのアンケートやインタビュー・現地視察等)
- グローバル専門科目の各系に設置された「専門研究(海外体験)Ⅰ・Ⅱ」「専門研究(海外体験・英語)Ⅰ・Ⅱ」

宇都宮大学が参加する「大学コンソーシアムとちぎ」は、平成26年度から「とちぎグローバル人材育成プログラム」(海外留学・海外インターンシップを支援するために返済不要の奨学金等が支給されるプログラムで、基礎コースと上級コースの全2コース)を開始しており、その積極的な活用を図ります。詳細については、「留学とインターンシップ」(9ページ)をご覧ください。

(3) 外国語運用能力の強化

・英語力強化

英語については、基盤教育の英語教育プログラム「イープー(English Program of Utsunomiya University=EPUU)」との連携を図りながら、英語を用いた意思伝達、相互理解、並びに共同作業を行う汎用的能力向上を目的として、「Advanced Integrated English A、B」を新規開講し、英語の総合的スキルを上級まで高めます。また、TOEIC、TOEFL、IELTSなどの外部試験への対応強化を図り、特に、新たに実施する「外国語能力強化プログラム」の受講学生は、TOEICにおいて800点に到達することを目標とします。

・外国語能力強化プログラム

外国語能力強化プログラムは、1・2年次に行われる基盤教育での8単位以上の英語学修に基づき、専門教育において学術面に焦点を当てて英語能力を強化するものです。専門教育

における 20 単位以上、基盤教育と合計して 4 年間で 28 単位以上を確保し英語学修において汎用的技能を身に付けることに加えて、専門的な内容を英語で学修する能力を養うことも目標とします。具体的には、学術的な内容について、英語による読解、文章作成、ディスカッション、プレゼンテーションの各技能の向上を目指します。英語で情報を収集、分析、発信する力を効果的に育むことを意識してください。

・初修外国語の重視・「英語+1（プラスワン）」

国際学部専門教育課程における外国語教育の特徴は「英語+1（プラスワン）」、すなわち英語に加え、さらにもう一つの言語を必ず履修し、実用的なレベルにまで能力を向上させるという点にあります。国際学部では、これらの外国語を初修外国語と呼び、フランス語、中国語、韓国朝鮮語、スペイン語がそれに当たります。すべての学生は、原則としてこれら 4 言語から 1 言語を選択し、基盤教育において 2 科目 4 単位を修得した上で、専門教育において同じ言語を 4 単位以上履修する必要があります。さらに初修外国語における外国語教育強化プログラムを選択した学生は、基盤教育を履修した後、専門教育において 14 単位以上、基盤教育と合計して、4 年間で 20 単位以上を取得し、さらに海外への留学やインターンシップ等を通じ、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の 4 技能を実用的なレベルにまで向上させることを目指します。各言語の到達目標は、言語ごとに実施されている検定試験を活用した形で示します。

この 4 言語のほか、ドイツ語、ロシア語の授業を準備し、自らのキャリア形成に沿って、さらに言語を学びたいと考えている学生に機会を提供するカリキュラムとなっています。

2. 留学とインターンシップ

1 国際学部から海外に飛びだそう！

「国際学部の卒業生なら、当然海外での経験を積んでいるでしょう」と社会から期待される時代になりました。実際に、国際学部からは毎年多くの学生が、海外での留学やインターンシップを経験しています。

時間を確保しやすい学生時代に海外に出かけ、さまざまな経験と学びの機会を得ることを、ぜひおすすめします。経済的に余裕がない場合にも、渡航費などの関連経費を支援する制度があります。1年生の時期から、計画をたてておきましょう。

海外経験①：留学

海外の大学や語学学校で学ぶ留学には、次のような種類があります。

<p>「外国語臨地演習」 (国際学部 4 単位)</p>	<p>海外での短期間 (2~4 週間程度) の語学研修です。国際学部で学ぶことのできる、複数の言語で実施されています。</p> <p>英語と中国語は長期休暇期間中に実施されますが、その他の言語は交換留学期間中に、留学先の語学学校等を活用して実施します。詳細については、各プログラムの説明会で情報を得るようにしてください。</p>
<p>交換留学 (1 学期あるいは 1 年間 (2 学期間))</p>	<p>国際学部からは世界中にある約 50 の大学に、交換留学制度を利用して留学することができます。この制度を利用すれば、原則として宇都宮大学に支払う学費以外の授業料を、留学先の大学に支払う必要はありません(一部異なる制度を使っている大学がありますので、留学生・国際交流室で確認してください)。</p> <p>留学先の大学で履修した授業の一部は、単位認定が可能です。</p>

<交換留学が可能な大学のリスト>

【大学間交流協定】41校

- <中華人民共和国>電子科技大学、内蒙古農業大学、浙江師範大学、浙江工業大学、寧波大学、浙江大学*3、復旦大学*2、香港大学
- <大韓民国>祥明大学校、全北大学校、蓮庵大学、慶北大学校
- <台湾>国立台湾師範大学、国立政治大学、国立中興大学
- <モンゴル国>モンゴル人文大学、モンゴル生命科技大学
- <タイ王国>カセサート大学、アジア工科大学*4
- <マレーシア>サラワク大学
- <ベトナム社会主義共和国>ダナン科学技術大学
- <カンボジア王国>王立プノンペン大学
- <インドネシア共和国>ボゴール農科大学、ガジャマダ大学、パジャジャラン大学
- <バングラデシュ人民共和国>ダッカ大学
- <スリランカ民主社会主義共和国>ペラデニヤ大学
- <アイルランド共和国>アイルランド国立大学ダブリン校
- <フィンランド共和国>東フィンランド大学*4
- <フランス共和国>オルレアン大学
- <チェコ共和国>パラツキー大学
- <ドイツ連邦共和国>エアランゲン・ニュールンベルク フリートリッヒ・アレクサンダー大学
- <ベルギー王国>ブリュッセル自由大学
- <アメリカ合衆国>トライン大学、ヴィンセンス大学、ノースダコタ大学*2
- <カナダ>ノーザン・ブリティッシュ・コロンビア大学
- <ペルー共和国>ボンティフィシアカトリック大学
- <ガーナ共和国>ガーナ大学
- <エチオピア連邦民主共和国>アディスアベバ大学
- <タンザニア連合共和国>ネルソンマンデラ アフリカ科学技術大学院大学*4、ダルエスサラーム大学*4

【学部間交流協定】14校

- <中華人民共和国>チチハル大学、華南農業大学
- <大韓民国>釜慶大学校
- <台湾>国立暨南国際大学、国立台北大学
- <タイ王国>タマサート大学
- <ベトナム社会主義共和国>ハノイ大学
- <スリランカ民主社会主義共和国>ケラニア大学

<イギリス（連合王国）>セントラル・ランカシャー大学* 3

<ドイツ連邦共和国>トリア大学

<ロシア連邦>イルクーツク国立大学

<アメリカ合衆国>パデュー大学* 1

<メキシコ合衆国>コリマ大学* 2

<キューバ共和国>ハバナ大学* 1

<シリア・アラブ共和国>ダマスカス大学* 2

* 1 学術交流協定のみの締結校のため、学生の派遣は行っていません。

* 2 学生の派遣は、現在行っていません。

* 3 学生交流のみ行っています。

* 4 学生交流は大学院生のみ行っています。

<交換留学までの流れ>

参考 URL <https://www.utsunomiya-u.ac.jp/activity/international/study-abroad.php>

(大学ホームページ「海外留学」)

時期	準備する内容
1 年次生	行きたい地域や学びたい言語を選ぶ 卒業後のキャリア形成もふまえて検討する いつから、どのくらいの期間留学するかを考える 語学力の向上を目指す (TOEFL・IELTS・語学検定試験の受験) 海外留学説明会・留学体験報告会 (6 月頃)
1 年次生又は 2 年次生	学内選考への応募 (9~10 月頃) ※2 年次生の時期の留学：1 年次生で応募 3 年次生の時期の留学：2 年次生で応募 学内選考と内定 内定通知後の協定校への応募 協定校から正式受入通知
2 年次生又は 3 年次生	協定校とのその他の手続き パスポートとビザの取得 予防接種等の手続き 卒業研究指導教員との相談 渡航
3 年次生又は 4 年次生	帰国 単位互換を希望する授業についての申請 語学力の向上の成果を記録する (TOEFL・IELTS・語学検定試験の受験)

海外経験②：インターンシップ

海外にある企業や市民団体等で職場経験を積むことを、インターンシップといいます。国際学部では、以下のインターンシップのプログラムを単位認定しているほか、渡航費の支援制度も用意しています。

「国際キャリア実習」 (専門科目・国際キャリア教育科目・2単位)	グローバルな課題を扱う職場で将来活躍することを目指し、海外の企業、NGOなどでインターンを経験して、国際的なキャリアの形成につなげます。長期休暇などを利用した、80時間のインターンシップです。国際学部と同窓会による、渡航費支援制度が利用可能です。 その他、個人で応募した学外のインターンシップの場合にも、単位認定ができる可能性がありますので、この授業の担当教員に相談してください。
-------------------------------------	---

海外経験③：海外フィールドワーク演習Ⅱ

海外フィールドワーク演習Ⅱ 海外フィールドワーク演習Ⅱ・英語 (専門科目・国際キャリア教育科目・2単位)	国際協力分野でのキャリア形成を目指して、海外の国際協力機関での研修を行う授業です。農学部の学生と合同で学ぶことができます。「海外フィールドワーク演習Ⅰ」を履修していることが、本科目の履修の要件となります。
--	--

海外経験④：ワーキングホリデー、スタディツアーへの参加や私費留学など

「グローバルAL演習Ⅰ・Ⅱ」(海外体験) 「グローバルAL演習Ⅰ・Ⅱ」(海外体験・英語) (専門科目・国際キャリア教育科目・2単位)	海外でのワーキングホリデーやスタディツアーへの参加や、私費で留学をした場合にも「グローバルAL演習Ⅱ」(海外体験)(専門科目・国際キャリア教育科目・2単位)として、単位認定が可能な場合があります。詳細は、修学支援課にて確認してください。
--	--

海外経験⑤：留学中に海外の大学で実施した学習・研究・実践的活動など

グローバル専門科目の各系に設置された 「専門研究(海外体験)Ⅰ・Ⅱ」 「専門研究(海外体験・英語)Ⅰ・Ⅱ」 (各1単位)	留学中に海外の大学で実施した学習・研究・実践的活動を「専門研究(海外体験)Ⅰ・Ⅱ」(グローバル専門科目、各1単位)として、単位認定が可能な場合があります。詳細は、修学支援課にて確認してください。
---	---

※ さまざまな募集、説明会、報告会の開催にあたっては、アナウンスが掲示されるので、見落とさないように注意してください。

2 海外体験の費用支援制度：とちぎグローバル人材育成プログラム

海外への留学とインターンシップの費用を支援する「とちぎグローバル人材育成プログラム」が、大学コンソーシアムとちぎによって用意されています。以下の支援金は原則として返済の義務はありません。

プログラムの内容

留学等のプログラム及び事前・事後の地域インターンシップ（栃木県内の企業、団体等） 本事業に応募しようとする学生は、栃木県内の企業、団体等で実施する地域インターンシップの具体的な活動内容やミッション等を自ら設計すること。※地域インターンシップは、事前または事後（併せて10日以上）を実施すること。

支援金額：アジア地域は15万円まで

アジア地域以外は25万円まで

支援人数：14人程度

申請要件：本事業に申請することができる者は、以下の要件すべてを満たす者とする。

- (1)大学等に在籍する正規生で、日本国籍を有する、または永住が許可されている者。ただし、海外インターンシップについては、将来的に栃木県内企業への就職を希望している外国人留学生も対象とする。
- (2)「とちぎグローバル人材育成プログラム」の共通科目の単位を5単位以上修得（過去年度含む）している者又は在学中に修得が見込める者。なお、共通科目5単位以上のうち、大学コンソーシアムとちぎ必修(選択必修)科目については、必ず留学を申請する年度末までに1単位以上を修得すること。
- (3)当該留学等において、申込時に他の団体等からの支援金等を受給していない者。ただし、支援対象経費が重複していないケースは、認める場合がある。その場合、他の奨学金の需給が確定した時点で速やかに申し出ること。

対象期間：海外留学はおおむね3週間から（3週間未満でも申請可）

海外インターンシップは2週間から

※参考 URL <http://www.consortium-tochigi.jp/global.html>

※年度によって変更の可能性がありますので、随時確認してください。

3 留学しながら4年間で卒業するモデル

留学中は卒業研究準備演習や卒業研究Ⅰ等の一部の科目を除き、宇都宮大学国際学部を履修できません。このため、卒業に必要な単位を留学しながら4年間で揃えるには工夫が必要となります。第一に、国際学部は交換留学中に海外の大学で取得した単位や、私費留学・短期留学・ワーキングホリデー等の活動に対して単位を認める仕組みを多く持っています。これらを利用して、海外での経験を積極的に単位として積み上げてください。第二に、留学期間中に取得できない単位を、留学の前後に分散して取得する方法があります。この方法については、留学する時期や期間で様々なパターンがありますが、ここでは代表的な3つのパターンをあげます。

◎パターン1 2年次後期から3年前期に留学する

1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期	
				留学		卒業研究Ⅰ・Ⅱ		
		専門演習・実験・実習			卒業研究準備演習			
					専門演習・実験・実習			
		専門外国語					専門外国語	
		グローバル専門科目					グローバル専門科目	
		国際キャリア教育科目					国際キャリア教育科目	
		多文化共生基礎科目						
多文化共生コア科目								
初修外国語(基礎)								
	基礎教育科目					基礎教育科目		高度教養科目(基礎)

1年次から留学の準備を進めます。標準的に2年次から3年次に履修する科目を、留学の前後の学年で履修します。

◎パターン2 3年次後期から4年次前期に留学する

1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
					卒業研究準備演習	卒業研究Ⅰ・Ⅱ	
専門外国語				専門演習・実験・実習	留学		専門外国語
グローバル専門科目							グローバル専門科目
国際キャリア教育科目							
多文化共生基礎科目							
多文化共生コア科目							
初修外国語（基盤）							
基盤教育科目							高度教養科目（基盤）

卒業研究準備演習や卒業研究Ⅰを遠隔履修します。（指導教員にご相談ください。）

◎パターン3 短期留学・海外体験を活用

1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
					卒業研究準備演習	卒業研究Ⅰ・Ⅱ	
短期留学や海外体験				短期留学・実験・実習	留学		
専門外国語				専門演習・実験・実習			
グローバル専門科目							
国際キャリア教育科目							
多文化共生基礎科目							
多文化共生コア科目							
初修外国語（基盤）							
基盤教育科目							高度教養科目（基盤）

休暇期間を利用して短期留学・海外体験を実施します。

3. 宇都宮大学で履修できるプログラムについて

1 Learning+1「グローバル人材育成プログラム」

宇都宮大学独自に用意しているプログラムで、プログラムの科目表から 30 単位以上を履修し、TOEIC スコアが 650 点以上になれば、修了証が発行されます。交換留学の選考に際しては、本プログラムの履修者が優先されますので、留学希望者は登録を強く勧めます。詳細は『履修案内』にある「“Learning+1”の履修について」をご覧ください。

2 「文理融合型数理・データサイエンス教育プログラム」

本学では、Society 5.0 が実現された未来社会において、文理の枠組みにとらわれることなく地域創生に中心的に携わることのできる教養と専門性を持った人材の育成を進めており、数理・データサイエンス・AI 教育においてもこの育成方針に従って、「文理融合の教養」と「専門性」を兼ね備えた体系的教育を目指し、「文理融合型数理・データサイエンス教育プログラム」を開設しています。また、基礎コースと応用コース（ブロンズランク、シルバーランク、ゴールドランク）に分け、目的に沿った能力の育成を目指します。本プログラムについては、個別の申込みは不要です。修了要件を満たすと、3年次 10 月から証明書自動発行機で学修証明書を発行することができます。詳細は、『履修案内』にある「文理融合型数理・データサイエンス教育プログラム」をご覧ください。

4. 卒業研究や専門分野を視野に入れた履修方法 ～教員ごとのページ～

1. 地域研究系

Seminar in Latin American Studies

中国文化論演習 Seminar in Chinese Cultures

中東地域研究演習 Seminar in Area Studies of the Middle East

アフリカ論演習 Seminar in African Studies

民族誌学演習 Seminar in Ethnographic Studies

地域社会論実習 Practicum in Rural Sociology



ラテンアメリカ論演習 Seminar in Latin American Studies

スエヨシ アナ SUEYOSHI Ana

キーワード：ラテンアメリカ社会・ラテンアメリカ経済・ラテンアメリカの政治・ラテンアメリカの文化

学問的特徴：ラテンアメリカの地理、歴史、経済、社会、文化を研究対象とし、これらの個別の事例に依拠しつつ、国家間の関係や交流を分析し、そこに存在する共通性や相違点などを考察する。

専門分野：ラテンアメリカの財政政策 ラテンアメリカ及びカリブ海沿岸における長期経済成長と財政政策、内生的な経済成長についての研究を専門としています。宇都宮大学に赴任してからは、日本におけるラテンアメリカ出身の労働者の状況とその子供の教育、ペルーへ帰国した子供の教育、ペルーの日系社会を通じて形成された日本に対するイメージについての研究も行っています。

指導方針：指導は基本的に、専門科目の講義と演習を通じて、ラテンアメリカの社会、文化、経済、政治、歴史等を紹介し、学生に興味のあるテーマを選択させる形で行います。学生には選択した分野の学術論文を読ませ、卒業論文のテーマを十分に絞らせると同時に、セミナーを通じて、資料やデータの収集、参考文献の整理、データの分析、文章の書き方など論文執筆に必要なことを適時指導していきます。学術研究は先行研究の理論枠組みを十分に理解した上で、自らのアプローチにより結論を導き出すことが重要です。また、卒業論文の執筆は英文でも邦文でも構いませんが、英文による執筆を希望する場合は英語科目の履修が必要になります。

主な執筆論文・文献：

Sueyoshi Ana (2019) “International Circular Migration and Differences in Identity Building of Nikkei Peruvians,” *Journal of the Faculty of International Studies, Utsunomiya University*, No 48, 47-58.

スエヨシ アナ 深澤誠哉 (2023) 「ブラジルとペルーにおける分析—民政移管以降の大統領選挙と汚職—」『宇都宮大学国際学部研究論集』 No. 56 101-109.

スエヨシ アナ 深澤誠哉 (2024) 「21世紀のブラジルとペルーにおける不安定な政治と汚職」『宇都宮大学国際学部研究論集』 No. 57 27-38.

この分野を知るための基本的な文献紹介：

Skidmore, Thomas E. et al. (2010) *Modern Latin America*, 7th ed., Oxford University Press.

Engerman, Stanley L. et al. (2012) *Economic Development in the Americas since 1550. Endowments and Institutions*, Cambridge University Press.

卒業論文題目例：

Technological Transfer through Malaysia Look East Policy Education Program- From Graduates Perspective (マレーシア東方政策教育プログラムによる技術移転) (23 年度)

The Role of Ethnic Politics in Political Stability & Democratic Governance in Malaysia (マレーシアにおける民族政治：政治的安定性と民主的ガバナンス) (23 年度)

The Motivation and Obstacle for the Heritage Speakers of Interlingual Families to Change the Family Language Policy (FLP) (異言語間家族における継承語話者の家庭内言語教育方針を変える動機と壁) (20 年度)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目	基礎科目	多文化共生コア A (国際関係論) 多文化共生基礎 F (国際政治論)	多文化共生基礎 G (国際経済論)		
	専門外国語科目		スペイン語会話 (スエヨシ) スペイン語講読 A (スエヨシ) スペイン語講読 B	スペイン語講読 C (スエヨシ) スペイン語文章表現 (スエヨシ) 外国臨地演習 (スエヨシ) スペイン語講読 D	
グローバル専門科目	地域研究系		Introduction to Latin American Studies (スエヨシ) Latin American Politics and Society (スエヨシ)		
	異文化理解・コミュニケーション系				
	国際協力・共生系	ジェンダー論	途上国経済発展論 Global Political Economy	グローバル化と外国にルーツをもつ子どもの教育	
	その他		International Career Seminar	交換留学	国際キャリア実習
	卒業研究関連			Seminar in Latin American Studies) (スエヨシ) 卒業研究準備演習 (スエヨシ)	卒業研究 I・II (スエヨシ)
基盤教育科目		スペイン語基礎 I・II スペイン語基礎 A・B			



中国文化論演習

Seminar in Chinese Cultures

梁 鎮輝 RYO Chinki

キーワード：東アジア・中国・中華・香港・台湾・歴史・思想・文学・伝統・近代

学問的特徴：歴史や思想、宗教、言語、文学など人文諸学の観点から、中国と日本の文化やその背景となっている社会構造を考えます。アジア太平洋文化社会研究グループのほか、日本を含めた他地域の歴史や思想などに関する人文系科目を幅広く履修してください。

専門分野：近代における中国と日本の思想や文化を研究しています。とりわけ諸分野における伝統と近代をめぐる日中の知識人たちの議論に注目し、東アジア思想交流史の視角から、その接触、交渉、変容過程について考察を進めています。

指導方針：日本にとって近くて遠い中国ないし東アジアについて、単に表面的な事態に視線を注ぐだけでなく、その精神的基盤を歴史的に掘り下げて解明していく必要があります。多くの学問分野を横断し、知的探求の楽しさを味わって欲しいと思います。第三者からの伝聞による中国理解を脱するため、ぜひ臨地演習や交換留学などを活用して、自分の眼で「中国」に触れてください。ただ、現地調査は、正確な文献読解と史料批判に基づいた上で獲得された知識の基礎に立ってこそ、意義深いものとなるので、1～2年の間に語学力を高め、歴史・地理、哲学・思想、政治・社会など、興味と符合する科目を履修し、異文化理解の基礎知識や方法論を獲得しておいてください。

主な執筆論文・文献：

梁鎮輝（2018）「釣人とその時代：戦時中の露伴から」『世界文学』第128号

梁鎮輝（2019）「露伴の『墨子』とその政体論：梁啓超との比較から」『比較文化研究』第134号

梁鎮輝（2021）「幸田露伴の『道教』と近代中国：『道藏』出版、『仙書参同契』をめぐる」『社会文化史学』第64号

梁鎮輝（2025）「幸田露伴の趣味論について：時代の正当なる批判者となるために」『社会文化史学』第69号

この分野を知るための基本的な文献紹介：

若林正文（2001）『台湾—変容し躊躇するアイデンティティ—』筑摩書房（ちくま新書318）

家近亮子ほか編（2005）『5分野から読み解く 現代中国』晃洋書房

坂本ひろ子（2016）『中国近代の思想文化史』岩波新書

武田雅哉ほか編著（2016）『中国文化55のキーワード』ミネルヴァ書房

尾形勇ほか著（2021）『日本にとって中国とは何か』講談社学術文庫

武田雅哉ほか編著（2022）『中国文学をつまみ食い』ミネルヴァ書房

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目		国際政治論	文化人類学 芸術文化論		
基礎科目					
専門外国語科目		中国語専門基礎 A、B	中国語講読 A、C 中国語会話	中国語講読 D 中国語文章表現 外国語臨地演習	
グローバル専門科目	地域研究系		中国文化論 近現代中国論 韓国文化論 フランス文化論 日本史概説 日本語史		
	異文化理解・コミュニケーション系		表象文化論 日本語論		
	国際協力・共生系	ジェンダー論	多文化共生教育 人の国際移動		
その他		国際キャリア教育	International Career Seminar	交換留学	国際キャリア実習
卒業研究関連				中国文化論演習(梁) 卒業研究準備演習(梁)	卒業研究 I・II (梁)
基盤教育科目		中国語基礎 I・II			



中東地域研究演習

Seminar in Area Studies of the Middle East

松尾 昌樹 MATSUO Masaki

キーワード：地域研究・中東・政治経済・資源・移民・政治体制・計量分析

学問的特徴：中東地域を中心に、社会・経済・政治問題を、現地の文脈において分析する手法を獲得する。中東地域に関する基礎的な知識を有していることが望ましい。そのうえで、学生はそれぞれの興味に応じて、経済学、政治学、人類学、実証分析手法などに関する知識を有していることが望ましい。

専門分野：中東地域研究、国際政治経済 中東地域を対象に、特定の政治体制（民主主義・権威主義）が持続する要因を、その国の経済構造や社会構造から、社会科学的分析手法に基づいて明らかにする研究を進めています。近年は、石油資源に基づく経済構造や、多くの移民を受け入れることが、権威主義体制の持続に影響を与えるということ、統計データやモデルを元に分析しています。

指導方針：中東地域研究の基本となるような文献を輪読します。また、先行研究の再現実験を通じて、分析技術を修得します。輪読の後に、各参加者の関心に即したテーマで調査・発表を行います。参加者が進んで学習や調査に取り組む姿勢が求められます。

主な執筆論文・文献：

Masaki Matsuo and Shingo Hamanaka (2025) “How immigration policies sustain authoritarian regimes in Saudi Arabia,” *Third World Quarterly*, 46:874-895.

Ishii, M., H. Naomi, M. Matsuo and K. Horinuki eds. (2019) *Asian Migrant Workers in the Arab Gulf States: the growing foreign population and their lives*, Brill.

Matsuo, M. (2019) “Ethnocracy in the Arab Gulf States: Oil Rent, Migrants and Authoritarian Regimes”, in Lian, L. F., H. Naomi and M. Ishii, *International labor migration in the Middle East: issues of inclusion and exclusion*, Springer.

松尾昌樹 (2025)「レンティア国家論・石油の呪いから移民エスノクラシー論へ——地域の固有性を時系列クロスセクション分析に組み込む——」『地域研究と比較政治学』(日本比較政治学会年報第 26 号)

松尾昌樹、浜中新吾共訳、マイケル・ロス著『石油の呪い』吉田書店、2017 年

この分野を知るための基本的な文献紹介：

末近浩太・松尾昌樹（編）（2024）『中東を学ぶ人のために』世界思想社。

今井宏平（編著）（2022）『教養としての中東政治』（ミネルヴァ書房）。

松尾昌樹（2010）『湾岸産油国 レンティア国家のゆくえ』（講談社メチエ）

卒業論文題目例：

「外国籍者への排外意識と脅威認識について」(2022年)

「子どもの学力における学校外教育の効果—パネルデータを用いて—」(2022年)

「フランスのライシテとイスラーム移民—アルザス地方からみるライシテ—」(2016年度)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目	基礎科目	多文化共生基礎 C(文化人類学) 多文化共生基礎 F(国際政治論) 多文化共生基礎 G(国際経済論) 多文化共生基礎 H(国際社会論)			
	専門外国語科目				
グローバル専門科目	地域研究系		中東地域研究 民俗誌学		
	異文化理解・コミュニケーション系	国際事象の実証分析			
	国際協力・共生系		アフリカ論 人の国際移動 ミクロ経済学 マクロ経済学		
	その他				
	卒業研究関連			中東地域研究演習 (松尾) 卒業研究準備演習 (松尾)	卒業研究 I・II (松尾)
基盤教育科目		中東の社会と文化(グローバル化の世界 B・松尾)			



アフリカ論演習

Seminar in African Studies

阪本 公美子 SAKAMOTO Kumiko

キーワード：アフリカ・内発的発展・豊かさ・食・在来知・健康・国際開発・貧困・経済格差

学問的特徴：アフリカにおける対象地域の理解のもと、先行研究を踏まえ、各自が興味を持つテーマについて考察します。状況の多角的理解と問題意識の明確化のためにも、関連科目の幅広い履修が望ましい。

専門分野：アフリカを対象とする地域研究。しばしば問題とされるアフリカの貧困や発展のみならず、人びとの生活の背景となる文化や社会構造、在来知に興味を持ち、主にタンザニアの農村において現地調査を行っています。

指導方針：3年次の演習では、それぞれの関心のある地域や問題意識に基づき定めたテーマについて掘り下げた文献研究をはじめ、論文や資料収集、研究方法、論理的思考、論文作成技術などについて学びます。4年次には、文献研究、テーマによってインタビューやアンケート調査等を実施し、卒業論文を執筆し、研究室で議論と推敲を重ねて論文を提出します。提出後には、卒論発表会と論集作成を行います。2年次までに、授業内外における幅広い学習や体験を通じて、それぞれの問題意識を磨いておいて下さい。日本語だけでなく外国語の論文や資料も読みこなせることによって世界が広がりますので、1～2年次から十分に語学も鍛えて下さい。

主な執筆論文・文献：

Sakamoto Kumiko (2009, 2021) *Social Development, Culture, and Participation*, Shumpusha.

阪本公美子 (2018) 「相互扶助は子どもの生存に寄与するか」『アフリカ研究』第92号.

Sakamoto Kumiko (2020) *Factors Influencing Child Survival in Tanzania*, Springer.

阪本公美子 (2020) 『開発と文化における民衆参加』春風社.

阪本公美子他 (2021) 『ニョタのふしぎな音楽～タンザニアの星空のもとで～』三恵社.

阪本公美子他 (2021) 「タンザニア3地域における野生食物摂取と成人の主観的健康の関係」『国際開発研究』第30巻, 第2号.

Sakamoto Kumiko et al. (2023) *Changing Dietary Patterns, Indigenous Foods, and Wild Foods*, Springer.

Sakamoto Kumiko et al. (2025) “Children's Wild Food Intake and Recognition in Inland and Coastal Southeast Tanzania: Comparison with Adults and through Picture Analysis”, *Journal of African Studies*, No.107.

その他「宇都宮大学国際学部阪本公美子」HP (<https://sakamoto-kumiko.hatenadiary.org/>) 参照

この分野を知るための基本的な文献紹介：

阪本公美子・岡野内正・山中達也編著 (2021) 『日本の国際協力 中東・アフリカ編』ミネルヴァ書書房.

大林稔・西川潤・阪本公美子編著 (2014) 『新生アフリカの内発的発展—住民自立と支援』昭和堂.

日本アフリカ学会編 (2014) 『アフリカ学事典』昭和堂.

卒業論文題目例：

- 「アフリカにおける貨幣・市場の浸透と相互扶助—ガーナに焦点を当てて—」(24年度最優秀論文、国際開発学会国際開発論文コンテスト最優秀賞)
- 「小笠原諸島父島における小農に関する一考察」(23年度優秀論文)
- 「インドにおける性的な人身取引の実態と被害者支援のあり方」(22年度優秀論文)
- 「アジア・アフリカの「権威主義国家」を母国に持つ国民の視点から見た政治体制」(21年度優秀論文)
- 「現代における生活環境病を取り巻く社会認識と課題—化学物質過敏症を事例に」(18年度最優秀論文)
- 「東日本大震災における震災遺構に関する一考察—負の遺産やダークツーリズムの視点から」(17年度優秀論文)
- “The Role of Peer Support for International Students at Universities in Japan” (14年度最優秀論文)
- 「FGM/女子割礼を取り巻く人間関係と廃絶アプローチの可能性」(13年度同窓会賞受賞)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目	基礎科目	多文化共生コア A,B,C 多文化共生基礎 E,F, G, H	多文化共生基礎 C		
	専門外国語科目	フランス語	・スペイン語等		
グローバル専門科目	地域研究系	イギリス文化論	中東地域研究, 地域社会論, フランス文化論, 民俗誌学	地域研究専門研究 (海外体験・英語)	
	異文化理解・コミュニケーション系	国際事象の実証分析	哲学概論, 社会調査法入門, 世界の歴史と文化, 対人コミュニケーション論		
	国際協力・共生系	ジェンダー論, ミクロ経済学, International Humanitarian Law in Theory and Practice	アフリカ論(阪本), 途上国経済発展論(阪本). 国際協力論, マクロ経済学, 地球環境政策論, Theory of Global Governance, 環境 と国際協力, 国際機構論, International Protection of Human Rights, Global Political Economy	国際協力・共生専門研究(海外体験・英語)	
	その他	国際キャリア教育, International Career Seminar		交換留学, グローバルAL演習(海外体験・英語, 外国語臨地演習	国際キャリア実習
	卒業研究関連			アフリカ論演習(阪本), 卒業研究準備演習(阪本)	卒業研究 I・II (阪本)
	基盤教育科目	アフリカ学入門(阪本)			



民族誌学演習

Seminar in Ethnography

リーペレス ファビオ Lee Perez Fabio

キーワード：文化人類学、民族誌、フィールドワーク、異文化理解

学問的特徴：文化人類学は、人の生き方を文化の側面から見つめ、人間理解を深める学問です。調査対象となる人々が暮らす異郷の地に直接赴いて、長期間にわたって住み込みで現地の人々と生活を共にしながら、日常の営みを観察し、聞き取り、触れての参与観察の記録をフィールドノートに書き留め、それらをデータにして、ひとつの民族誌を記述します。文化人類学の醍醐味は、異文化を鏡として他者や他文化を理解し、その理解を通して自己や自文化を再帰的に見つめなおす点にあります。

専門分野：私は、幼いことから連続的な移動を繰り返しながら育った人々が、複数の社会を転々とする連続移動のなかで、どのような文化化の過程を経て自己を形成し、そうした人々が移住先で出会う人々とどのような関係を築き、その関係をどのように意味付けしているのかを、ストレンジャー、連続移動、そして友人関係の視点から研究しています。

指導方針：本セミナーでは、フィールドワークの手法を用いて、異文化に生きる人々の生き方を理解することを目指し、その成果を一冊の民族誌に描きあげることが目的です。そのためには、まず文化人類学の基礎的知識を習得します。2年次には、ジェンダー、宗教、食、人の移動、観光などの主要テーマを取り上げ、文化人類学の理論の系譜をたどりながら、異文化理解の視座や姿勢について理解を深めていきます。そして、3年次には、主要テーマやトピックに関する多くの民族誌を購読し、自分の関心分野を模索するとともに、研究に参照しうる理論的枠組みについても知見を広げます。そのうえで、自分の関心に応じて調査対象とテーマを設定し、実現可能な研究計画を立案し、後半にはフィールドワーク調査を始めます。

主な執筆論文・文献：

リーペレスファビオ（2020）『ストレンジャーの人類学-移動の中に生きる人々のライフストーリー』明石書店。

西川慧・リーペレスファビオ・中野惟文・包双月編（2024）『多軸的な自己を生きる—交錯するポジションナリティのオートエスノグラフィ』東北大学出版会。

リーペレスファビオ（2025）「連続移民のコスモポリタニズム—「折り合い」をつけて築く他者との関係」『宇都宮大学国際学部研究論集』第60号。

この分野を知るための基本的な文献紹介：

藤原潤子（2010）『呪われたナターシャ—現代ロシアにおける呪術の民族誌』人文書院。

鈴木裕之（2015）『恋する文化人類学者—結婚を通して異文化を理解する』世界思想社。

上水流久彦・太田心平・尾崎孝宏・川口幸大編（2017）『東アジアで学ぶ文化人類学』昭和堂。ri-

松村圭一郎・中川理・石井美保編（2019）『文化人類学の思考法』世界思想社。

卒業論文題目例：

「外国人女性にとってのサードプレイスに関する人類学的研究-宇都宮市のA料理教室を事例に」
(2024年度)

「求める美とそこに生きる女性-心身を傷つけない美容行為としてのヨガ」(2024年度)

「身守る山」と生きる-青森県岩木山麓の民間信仰を事例に」(2025年度)

「支援の場からつながりの場へ-子ども食堂に関する人類学的研究」(2025年度)

「怪談伝承を実演(オステンション)する人々の人類学-宇都宮市で活動する怪談コミュニティの参与観察を通して」(2025年度)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目/学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目 基礎科目		多文化共生基礎A (国際関係論)	多文化共生基礎C(文化人類学)		
専門外国語科目		特に指定しません。関心に沿って履修してください。			
グローバル専門科目	地域研究系		民族誌学 中東地域研究 Introduction to Latin American Studies		
	異文化理解・コミュニケーション系		哲学概論 社会調査入門 表象文化論 観光概論		
	国際協力・共生系	ジェンダー論	アフリカ論 人の国際移動 多文化共生教育		
その他		国際キャリア教育	International Career Seminar	交換留学	
卒業研究関連				民族誌学演習	卒業研究I・II(リレーレス)
基盤教育科目			スペイン語購読		



地域社会論実習

Practicum in Rural Sociology

古村 学 KOMURA Manabu

キーワード：フィールドワーク・村落社会・途上国・批判精神

学問的特徴：人類学や社会学の研究手法であるフィールドワークによって、ローカルな場である村落社会を理解し、そのうえでグローバルな現代社会を考えます。ここで重要なのは、ものごとを単純に考えるのではなく、批判的視点をもつことです。批判精神がなければ、思考停止するため、村落社会を正しく見ることはできません。この実習では、参加者が協力し、村落調査をおこないます。実習で身につけた能力をもとに、実習終了後は独力でのフィールドワークをおこなってもらいます。

専門分野：おもに日本の離島などの村落社会において、フィールドワークをおこなっています。「ふつう」に生活をおくっている人々の視点から、自然保護や世界自然遺産などのグローバルな現象を読みなおす研究をおこなっています。

指導方針：わたくしの指導方針は徹底したフィールド主義です。フィールドでの経験は、知識面だけでなく、考え方や生き方にまで大きな影響を与えるものです。社会調査法入門で学んだ村落社会をデータから見る能力、地域社会論で学んだ村落の知識および批判精神を発展させ、実習では、事前学習、現地調査、データ分析、報告書作成といった社会調査の一連の作業をおこないます。これらの作業を通じて、自らの力で社会調査をおこなえる力を養い、実習終了後には卒業論文に向けて住み込みでのフィールドワークをおこなってもらいます。また、知識もないまま調査をすることは、フィールド先への迷惑行為でしかないので、ある程度の書籍を読んでももらいます。

主な執筆論文・文献：

- 古村学 (2015) 『離島エコツーリズムの社会学——隠岐・西表・小笠原・南大東の日常生活から』吉田書店。
古村学 (2019) 「小笠原諸島におけるスポーツ」今泉隆裕・大野哲也編『スポーツをひらく社会学』嵯峨野書院。
宇都宮大学国際学部 古村研究室編『地域社会論実習調査報告書 地域から未来を見つめる』（第1集～第7集）2012～2024)

この分野を知るための基本的な文献紹介：

- 好井裕明 (2006) 『あたりまえを疑う社会学』光文社（新書）。
鳥越皓之 (2023) 『村の社会学』筑摩書房（新書）。
太田好信・浜本満編 (2005) 『メイキング文化人類学』世界思想社。

卒業論文題目例：「核燃料サイクルの語り」（2012 年度）、「語られる福島を超えて」、「現代農村に生きる女性たち」（2013 年度）、「農と人の暮らし」、「ドイツビオブームの功罪」、「西米良に生きる人びと」（2014 年度）、「消えゆく農耕馬の語り」（2015 年度）、「基地のある『日常』」、「神楽とまつり」、「追憶のタイムマス」、「『のくとまり』の温泉地」（2016 年度）、「延年を担う」（2017 年度）、「太平洋に響く太鼓」（2021 年度）、「地域も自分も照らす女性たち」（2024 年度）

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目			多文化共生基礎 C (文化人類学) 多文化共生基礎 H (国際社会論)		
基礎科目					
専門外国語科目					
グローバル専門科目	地域研究系		地域社会論(古村) 民族史学 近代中国論 フランス文化論 日本語史		
	異文化理解・コミュニケーション系	国際事象の実証分析	社会調査法入門(古村) 表象文化論 対人コミュニケーション論		
	国際協力・共生系	ジェンダー論	国際協力論 環境と国際協力論 アフリカ論 人の国際移動 国際機構論		
	その他		海外フィールドワーク演習 I、II		
卒業研究関連				地域社会論実習(古村) 卒業研究準備演習(古村)	卒業研究 I・II(古村)
基盤教育科目		データサイエンス入門 【国際 A】(古村)			

2 異文化理解・コミュニケーション系

Seminar in Comparative Study of Culture

表象文化論演習 Seminar in Representations and Criticism

言語学演習 Seminar in Linguistics

日本語論演習 Seminar in Japanese Linguistics

アメリカ文化論演習 Seminar in American Cultural Studies

イギリス文化論演習 Seminar in English Cultural Studies

フランス文化論演習 Seminar in French Cultural Studies



表象文化論演習 Seminar in Representations and Criticism

大野斉子 ONO Tokiko

キーワード：表象・文学・芸術

学問的特徴：文学、芸術におけるイメージをはじめ、あらゆる表象を研究対象とし、理論を通じて考察します。人文科学系は勿論、社会科学にも関わりを持つ領域ですので、幅広く学んでください。

専門分野：ロシア文学・文化 18世紀から20世紀初頭の帝政ロシア時代の文学・文化を専門に研究しています。文学のメディア論や、香水産業の歴史など文学・文化史を複数の視点から見直すテーマに関心を持っています。

指導方針：表象の研究には様々な理論や知識が求められます。表象文化論の研究とはどのようなものを学ぶため、理論に焦点を当て、3年次に概説書を複数講読します。その後、各自が関心のあるテーマの模索を始め、それに合わせた文献を読み進めて発表を行います。

主な執筆論文・文献：

大野斉子 (2015) 『シャネルNo.5の謎—帝政ロシアの調香師』 群像社。

大野斉子 (2017) 『メディアと文学—ゴッロが古典になるまで』 群像社。

大野斉子 (2025) 「ヘチマン国家時代から十九世紀前半におけるウクライナの表象形成と歴史観」 赤尾光春, 原田義也編 『ウクライナ文化の挑戦—激動の時代を超えて』 幻戯書房。

この分野を知るための基本的な文献紹介：

渡辺保、小林康夫、石田英敬 (2006) 『表象文化研究』 放送大学教育振興会。

多木浩二 (2008) 『目の隠喩—視線の現象学』 ちくま学芸文庫。

ピーター・バリー (2014) 『文学理論講義—新しいスタンダード』 ミネルヴァ書房

卒業論文題目例：

「安楽死容認の是非に関する議論と今後の日本における終末期医療の在り方 —映画作品から当事者の視点で安楽死について考える—」（20年度）

「神話が日本の多様性に与えた影響—つくられた神話と国民化の分析—」（22年度）

「映画における時事の反映 —日米ゴジラ映画の変容から—」（24年度）

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目		多文化共生コア B (異文化コミュニケーション)	多文化共生基礎 C (文化人類学)		
基礎科目		多文化共生基礎 A (Comparative Study of Culture)	多文化共生基礎 D (芸術文化論)(大野)		
多文化共生基礎 B (言語学)					
専門外国語科目					
グローバル専門科目	地域研究系	イギリス文化論	中国文化論 フランス文化論 イギリス文学史 アメリカ文化論 アメリカ文学史 日本文化論		
	異文化理解・コミュニケーション系		表象文化論(大野) 哲学概論	世界の歴史と文化	
	国際協力・共生系	ジェンダー論	多文化共生教育 人の国際移動		
その他				交換留学 外国語臨地演習	
卒業研究関連				表象文化論演習(大野) 卒業研究準備演習 (大野)	卒業研究Ⅰ・Ⅱ (大野)
基盤教育科目		ロシア文学(文学の世界 B)(大野)			



言語学演習 Seminar in Linguistics

木村崇是 KIMURA Takayuki

キーワード：言語学・文法理論・統語論・形態論・言語獲得・外国語学習・第二言語獲得

学問的特徴：母語話者や第二言語学習者がもつ言語知識や外国語学習、言語獲得の仕組みについて考察します。内省判断や実験などの科学的な手法を用いて仮説検証を行い、理論構築を目指します。

専門分野：言語学・第二言語獲得 生成文法理論と呼ばれる言語理論に基づいて、母語話者や第二言語学習者がもつ言語知識（特に文法と意味、形態）や言語獲得の仕組みの解明に取り組んでいます。

指導方針：3年次の演習では、実際に体験しながら研究の手順を一から完成（テーマの探し方から先行研究の批判・改善、調査のデザイン、データ分析、発表の仕方）まで学び、自力で卒業研究ができるよう指導します。教員が講義するというより、学生のみなさんが考え、意見を出し合って議論し、手を動かして学んでいくスタイルです。ゼミで行った研究で興味深い結果が出たら、希望者には国際学会をはじめとする公のアカデミックな場での成果発表を促し、指導します。24年度は、EuroSLA というヨーロッパ最高レベルの国際学会、25年度は PacSLRF という環太平洋の国際学会に採択され、3年次グループ研究の成果を発表しました。また、卒業論文を論文化したものが国際学術誌にも掲載されています。学生からの要望に応じて、任意参加の勉強会も開催しています。

ゼミ生の研究成果や活動内容は
右のQRコードから見れます



主な執筆論文・文献：

- Kimura, Takayuki & Shigenori Wakabayashi (to appear) “UG-based Models” / “Generative Grammar,” In: *International Encyclopedia of Language and Linguistics*. Elsevier.
- Kimura, Takayuki (to appear) “Revisiting Universal Grammar in L2 Acquisition: Weak Conformity and Linguistic Dissonance Resolution,” *Second Language Research*, Vol.00(in print): 1–19.
- Kimura, Takayuki & Takaaki Hirokawa (2025) “More Evidence on the Unergative–Unaccusative Distinction in Second Language Grammars,” *Linguistic Approaches to Bilingualism*, Vol.15, No.3: 404–423.
- Kimura, Takayuki (2025) “Problems and Prospects in L2 Syntax Research within the Generative Framework,” *Second Language*, Vol.24, No.1: 84–101.
- Kimura, Takayuki (2023) “Feature Selection, Feature Reassembly, and the Role of Universal Grammar,” *Language Acquisition*, Vol.30, No.1: 101–103.
- Kimura, Takayuki (2022) “Movement and Islands in Right Node Raising,” *Linguistic Inquiry*, Vol.53, No.3: 608–616.

この分野を知るための基本的な文献紹介：

Radford, Andrew (2016) *Analysing English Sentences*. Cambridge University Press.

若林茂則ほか (2006) 『第二言語習得研究入門』新曜社.

White, Lydia (2003) *Second Language Acquisition and Universal Grammar*. Cambridge University Press.

卒業論文題目例：

「日本語を母語とする英語学習者による英語の物体不可算名詞の誤りとその原因」(24年度 優秀卒論賞)

「日本語母語話者による英語間接受身文の判断について」(24年度)

“The Effects of Animacy and Agentivity on the Overpassivization of Unaccusative Verbs by Japanese Learners of English
(25年度)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目		多文化共生基礎			
	基礎科目	B (言語学) (木村)			
専門外国語科目		興味・関心のある科目を履修してください。		Academic English Writing (木村)	
				Directed English Writing (木村)	
グローバル専門科目	地域研究系	興味・関心のある科目を履修してください。			
	異文化理解・コミュニケーション系		Learning a Different World through English (木村) 英語学特殊講義 A・B 日本語論 Phonetics & Phonology Linguistic Typology and Language Communication		
	国際協力・共生系	興味・関心のある科目を履修してください。			
その他		International Career Seminar (木村ほか)	International Communication Seminar (木村ほか)	交換留学 外国語臨地演習	
卒業研究関連				言語学演習 (木村) 卒業研究準備演習 (木村)	卒業研究 I・II (木村)
基盤教育科目		興味・関心のある科目を履修してください。			



日本語論演習

Seminar in Japanese Linguistics

高山 道代 TAKAYAMA Michiyo

キーワード：日本語の歴史的変化・現代日本語・古代日本語・地域語・語彙論・文法論・日本語と他言語との対照

学問的特徴：講義科目では日本語の歴史的変化を視野に入れながら、語彙論、文法論を中心とした日本語学の諸領域についてとりあげます。演習科目ではそれに加えて地域語についてもとりあげ、各研究領域における基礎的な文献を講読するとともに、言語分析のための調査法をまなびます。

専門分野：日本語学・日本語史 日本語の歴史的変化を視野に入れながら、日本語の語彙、文法について研究しています。特に、日本語の名詞の格標示機能について、形態論および語彙論的な立場から研究を進めてきました。

指導方針：3年次の演習では、講義科目でとりあげてきた語彙論、文法論、文体論等の日本語学の諸領域、地域語、日本語の歴史的変化に関する領域のなかから各自の関心に沿って調査対象を選び、基礎的な学術論文を読み、検討をおこないます。言語学領域の基礎知識を身に付けていることを前提に進めますので、2年次までに関連科目を履修しておくことをお勧めします。また、地域語、社会言語学、日本語教育等に関心のあるかたはこうした関連科目についても履修しておくことをお勧めします。

主な執筆論文・文献：

- 「主語表示の名詞ノと名詞ガ—源氏物語における用法から—」『対照言語学研究』18号、2008年、PP. 49-62
「平安期日本語における動詞述語文の主語標示—ノ格とガ格のふるまいから」須田淳一・新居田純野編『日本語形態の諸問題』ひつじ書房、2010年、PP. 191-202
「平安期日本語の対象語表示の名詞-ヲ再考—語形態と語彙的意味における有標識性の差異をめぐって—」『外国文学』62号、2013年、PP. 31-43
『平安期日本語の主体表現と客体表現』ひつじ書房、2014年
「言語分析における『ゼロ記号』の意義をめぐって—格標示機能に焦点をあてて—」『歴史言語学』7号、2018年、PP. 17-33

この分野を知るための基本的な文献紹介：

- 角田太作『世界の言語と日本語』1991年、くろしお出版
金田一春彦『日本語（上）（下）』1988年、岩波書店（新書赤2）
池上嘉彦『意味の世界—現代言語学から視る』1978年、日本放送出版協会

卒業論文題目例：「現代における『おもちゃ化』した方言とLINEスタンプ」（2023年度）
「接続詞デモの初出時の様相」（2023年度）
「ベトナム語母語話者の日本語発音改善におけるVT法の応用」（2023年度）
「漫画『ONE PIECE』における笑い声について」（2022年度）

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目					
	基礎科目	多文化共生コア B (異文化間コミュニケーション) 多文化共生基礎 B (言語学)	多文化共生基礎 C (文化人類学)		
専門外国語科目		いずれかの外国語科目	いずれかの外国語科目		
グローバル専門科目	地域研究系		民族誌学 日本文化論	日本語史(高山) 日本史概説	
	異文化理解・コミュニケーション系	哲学概論	対人コミュニケーション論 日本語論(高山)	世界の歴史と文化	
	国際協力・共生系	ジェンダー論	多文化共生教育		
その他		統計学	多文化公共圏実践演習(グローバル)	交換留学 外国語臨地演習	
卒業研究関連				日本語論演習(高山) 卒業研究準備演習(高山)	卒業研究 I・II(高山)
基盤教育科目		新入生セミナー ことばからみた人間	日本語の文法(高山)	社会言語学概論	



アメリカ文化論演習

Seminar in American Culture

米山正文 YONEAYAMA Masafumi

キーワード：アメリカ合衆国、文化、歴史

学問的特徴：アメリカ合衆国の文化や歴史について考察します。

専門分野：アメリカ合衆国の文化・文学

指導方針：3年次の演習は教科書の輪読に基づいた受講生の発表で進めています。発表の後で質疑応答を行い、様々な点について知識や考察を深めます。漫然と課題をこなすだけでなく、関心や意欲をもって主体的に取り組むことが求められます。

主な執筆論文・文献：

- 米山正文 (2009) 「虚構としての〈信〉——『詐欺師』と19世紀ユニテリアニズム」根本治監修、松崎博・米山正文編『国家・イデオロギー・レトリック——アメリカ文学再読』南雲フェニックス。
- 米山正文 (2014) 「「黒い」主人、「白い」奴隷——「ベニト・セレノ」における反乱の意味」吉田迪子ほか『ターミナル・ビギニング——アメリカの物語と言葉の力』論創社。
- 米山正文 (2024) 「鳥と鯨——ディキンソン、ジュエット、メルヴィルにおける動物表象」中央大学人文科学研究所編『ローカリティのダイナミズム——連動するアメリカ作家・表現者たち』中央大学出版部。

この分野を知るための基本的な文献紹介：

- ロナルド・タカキ (1995) 『多文化社会アメリカの歴史——別の鏡に映して』明石書店。
- アレクシス・ド・トクヴィル (2005) 『アメリカのデモクラシー』(上・下) 岩波文庫。

卒業論文題目例： 「アメリカにおける銃規制問題と国際比較」(2024年度)
「クィア・シネマ～自由に生きたい人間の肖像～」(2024年度)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目					
	基礎科目	多文化共生コア B (異文化間コミュニケーション) 多文化共生基礎 A (Comparative Study of Culture)	多文化共生基礎 C (文化人類学) 多文化共生基礎 D (芸術文化論)		
専門外国語科目		1 言語は英語			
グローバル専門科目	地域研究系		アメリカ文化論(米山) アメリカ文学史(米山) イギリス文化論 イギリス文学史		
	異文化理解・コミュニケーション系		Cultures of the English-Speaking World 表象文化論 哲学概論	世界の歴史と文化	
	国際協力・共生系	ジェンダー論	多文化共生教育 人の国際移動		
	その他		International Communication Seminar	交換留学 外国語臨地演習	
	卒業研究関連			アメリカ文化論演習(米山) 卒業研究準備演習(米山)	卒業研究 I・II(米山)
基盤教育科目		英文学入門 米文学入門(米山)			



イギリス文化論演習

Seminar in British Cultures

出羽尚 IZUHA Takashi

キーワード：美術・工芸・デザイン・建築・庭園・書物・服飾・文学・美学・自然

学問的特徴：イギリスを中心とした文化について研究する。研究対象は「イギリス文化論」、「Cultures of the English-Speaking World」、「芸術の世界」（基盤）で扱ったもの、またそれら関連する対象を、受講生の関心に応じて設定する。

専門分野：西洋美術史。イギリスを中心とした絵画を主に研究している。なかでも自然を題材とした18-19世紀の風景画に関心を持っている。

指導方針：①調査：実際に対象に触れることが研究では最も重要な活動である。そのための調査を行う。調査の準備・実施・整理の作業が重要な研究の訓練となる。
②講読：文献資料の活用は人文科学の基本である。その訓練となる文献講読を行う。演習ではイギリスを対象とするため、少なくとも英語で読む作業ができなければならない。
③活用：調査・講読の成果を整理・活用して初めて研究となる。そのための体系的な資料の整理、効果的な発表、論理的な文章執筆の技術を身につける。

主な執筆論文・文献：

出羽尚 (2018) 「J・M・W・ターナーとエドモンド・スペンサー—1811年出版《スペンサーの妖精の女王より》考」『イメージ制作の場と環境』中央公論美術出版。

出羽尚ほか訳 (2018) 『ヌード NUDE —英国テート・コレクションより』横浜美術館。

出羽尚ほか訳 (2019) 『ブダペスト—ヨーロッパとハンガリーの美術 400年』国立新美術館。

出羽尚ほか訳 (2023) 『テート美術館展 光 ターナー、印象派から現代へ』国立新美術館。

この分野を知るための基本的な文献紹介：

下楠昌哉編 (2010) 『イギリス文化入門』三修社

川崎寿彦 (1997) 『庭のイングランド』(新装版) 名古屋大学出版会

木村三郎 (2011) 『西洋近代絵画の見方・学び方』左右社

卒業論文題目例：

「ケルト神話における妖精信仰」(21年度)

「網膜的鑑賞者からの脱却—岡本太郎の芸術思想を超えて」(21年度)

「クィア的視点の可能性—クィア・アートから捉えるマイノリティの〈他者化〉」(24年度)

「メアリー・カサットが描く二つの主題—新しい女性と母なる女性」(24年度)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年	1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目 基礎科目	多文化共生基礎 B (芸術文化論)			
専門外国語科目		English for Current Events (出羽)		
グローバル専門科目	地域研究系	イギリス文化論 (出羽)	中国文化論 フランス文化論 イギリス文学史 アメリカ文化論 アメリカ文学史 日本文化論	
	異文化理解・コミュニケーション系		Cultures of the English-Speaking World (出羽) 哲学概論 表象文化論	
	国際協力・共生系	ジェンダー論		
その他	外国語臨地演習	International Communication Seminar (出羽) 外国語臨地演習	交換留学	
卒業研究関連			イギリス文化論演習 (出羽) 卒業研究準備演習 (出羽)	卒業研究 I・II (出羽)
基盤教育科目	芸術の世界 B(基盤教養科目・出羽)	芸術の世界 B(基盤教養科目・出羽)		



フランス文化論演習

Seminar in French Cultural Studies

槇野佳奈子 MAKINO Kanako

キーワード：フランス・ヨーロッパ・西洋史・ヨーロッパ思想史・フランス文学

学問的特徴：フランス語圏の文学・思想・歴史・文化について考察します。フランス語科目に加えて、歴史・文化・芸術に関する科目など、ご自身の関心に合わせて履修しておいて下さい。

専門分野：フランス文学・思想史 19世紀フランスの批評家たちが、当時発明されたばかりの写真技術を「科学」と「芸術」との関係の中でいかに受け入れていったのかという点、そして同時代の「科学」と「非科学」の境界はいかに認識されていたのかという点について、当時の出版物を中心に研究しています。

指導方針：3年次の演習ではフランス語圏に関する基本的な文献を読み込み、そこから自らの見解を構築する力をつけていきます。こうした作業に加えて、各自の関心に基づいた調査・分析・発表をしてもらいます。2年次までにフランス語科目をしっかり履修しておいて下さい。実際に文献や資料を読むことでフランス語の力は少しずつ着実についていきますので、一緒に頑張りましょう。

主な執筆論文・文献

(単著)

槇野佳奈子 (2023) 『科学普及活動家ルイ・フィギエ——万人のための科学、夢としての科学』水声社。

(共訳)

レジス・メサック (2021) 『「探偵小説」の考古学』石橋正孝監訳、池田潤、佐々木匠、白鳥光、槇野佳奈子、山本佳生訳、国書刊行会。

(論文)

槇野佳奈子 (2022) 「科学普及活動家ルイ・フィギエとフランスにおける初期の写真技術」『科学史研究』日本科学史学会、第303号。

槇野佳奈子 (2024) 「ルイ・フィギエ『汝自身を知れ』における人体と死への眼差し」『STELLA』第43号。

この分野を知るための基本的な文献紹介

G・ベルティエ・ド・ソヴィニー (2019) 『フランス史』楠瀬正浩訳、講談社選書メチエ。

田村毅 編 (2012) 『フランス文化事典』丸善出版。

卒業論文題目例：「ブリア＝サヴァランの時代的美食と現代的美食」

「シャルル・ペローとグリム兄弟の童話における菓子と現代への影響」

「19世紀フランスにおける風刺画の役割と社会に与えた影響」

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目					
	基礎科目	多文化共生コア A (国際関係論)	多文化共生基礎 C (文化人類学) 多文化共生基礎 D (芸術文化論)		
	専門外国語科目		フランス語講読 A-D(禎野) フランス語会話 フランス語文章表現	フランス語講読 A-D(禎野)	
グローバル専門科目	地域研究系		フランス文化論(禎野) 中東地域研究	アジアの歴史と思想 Japan's International Relations	
	異文化理解・コミュニケーション系		表象文化論		
	国際協力・共生系	ジェンダー論	アフリカ論 人の国際移動 多文化共生教育		
	その他			交換留学	
	卒業研究関連			フランス文化論演習(禎野) 卒業研究準備演習(禎野)	卒業研究 I・II(禎野)
基盤教育科目		フランス語基礎 I-II	フランス語専門基礎 A フランス語専門基礎 B(禎野)		

3 国際協力・共生系

Seminar in Global Governance

環境と国際協力演習 Seminar in Environment and International Cooperation

多文化共生教育演習 Seminar in Education for Multicultural Society

国際社会論演習 Seminar in International Sociology

国際協力論演習 Seminar in International Cooperation

国際関係論演習 Seminar in International Relations

国際法演習 Seminar in International Law

国際政治論演習 Seminar in International Politics

国際経済論演習 Seminar in International Economy

Seminar in Disaster Studies



グローバルガバナンス演習 Seminar in Global Governance

アルジョン スギット ARJON Sugit

キーワード：市民社会・東南アジア・民主主義・紛争と平和研究・グローバルガバナンス・セキュリティ研究

学問的特徴：このセミナーでは、学生にグローバルガバナンスの構造、慣行、規範、および関係者を紹介します。国際安全保障ガバナンス、グローバル・ヘルス・ガバナンス、グローバル経済ガバナンス、グローバル環境ガバナンス、グローバル・フード・ガバナンスなど、グローバル・ガバナンスの実践における問題について議論します。

専門分野：これはグローバルガバナンスのセミナーですが、私のこれまでの研究 平和と紛争の研究に集中する傾向がありました。私の研究は、地域の自治、汚職事件、軍事的影響、国家の政治的統合の影響など、この地域の政治的ダイナミクスを見ることによって、紛争後の分析に関する学術的議論を共有することを目的としています。私の現在の研究のほとんどは、東南アジア、特にインドネシアにおける紛争後の地域、民主化、国家暴力、グローバルガバナンスと市民社会、安全保障、政治王朝、民軍関係に適用されます。

指導方針：3年次の演習では、毎週、グローバルガバナンスとその問題に関連する文献について議論します。学生は、定期的にクラスの前で自分のアイデアを発表することが期待されています。コースの最後には、各参加者の関心に沿ったテーマで研究とプレゼンテーションが行われます。参加者は、学習と研究に積極的に取り組むことが期待されています。セミナーは英語で行われます。

主な執筆論文・文献：

Arjon Sugit (2025). “Feeding the Nation or Feeding the Elite? Contesting the Militarization and Privatization of Indonesia’s Food Self-Sufficiency Policy”. *Journal of Human Security Studies*, Vol.14, No.2.

Arjon Sugit (2024). “The Candidate’s Dilemma: Anti-Corruptionism and Money Politics in Indonesian Election Campaigns”, by Elisabeth Kramer. *The Journal of Asian Studies*, Vol. 83 No. 2.

アルジョン スギット (2024). “民主主義の再定義——東南アジアにおける紛争後の変革をナビゲートする” 宇都宮大学国際学部 30 周年記念学術書『探究の国際学 —複合危機から学際的な研究を考える』ナカニシヤ出版, pp. 165-182. (共著).

卒業論文題目例：

The Impact of Studying Abroad in Japan on Malaysian Students' Personal Development (2025)

Globalization and the Transformation of Cultural Identity: A Comparative Analysis of Shanghai, Tokyo, and Bangkok (2025)

Racial Microaggressions in Japan: Insights from International and Japanese Students (2025)

Missing Gaps Between Millennials' and the Younger Generation's Perspectives on Women's Political Participation: A Comparative Study of Malaysia and Japan. (2024)

科目／学年		1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目	基礎科目	多文化共生コア C Global Civil Society	グローバル実践力基礎演習 II		
	専門外国語科目	Advanced English I	Academic English Writing	Directed English Writing	
グローバル専門科目	地域研究系				
	異文化理解・コミュニケーション系				
	国際協力・共生系		Theory of Global Governance Global Management: Asia and Development		
	その他		International Career Seminar International Communication Seminar		
	卒業研究関連			Seminar in Global Governance (アルジョン) 卒業研究準備演習 (アルジョン)	卒業研究 I・II (アルジョン)
基盤教育科目					



環境と国際協力演習 Seminar in Environment and International Cooperation

高橋若菜 TAKAHASHI Wakana

キーワード：地球環境管理・ガバナンス・市民社会・持続可能な発展・環境言説・循環型社会・原発震災

学問的特徴：環境問題は、本質的には政治問題であると捉え、座学だけでなくフィールドスタディ、社会との共創（アクションリサーチ）を通じて、持続可能な社会を実現する政治のあり方を探求しています。環境問題の激甚化には、問題の過小評価、情報非開示など共通の構造があります。一方、多様性を重んじ、生活者、被害者、弱者の視点に寄り添うことは、幸福度を向上させ持続可能な社会形成にも貢献することを、これまでの歴史は示しています。被害の可視化は、持続可能な発展に向けた出発点です。

専門分野：環境政治学（地球環境政治・比較環境政治） ①循環型社会／脱炭素社会形成に関する欧米の取組みについての比較政治的考察-日本とスウェーデンを中心として、②欧州・北米・東アジアの越境大気汚染をめぐる比較政治、③原発震災被害の記録継承。

指導方針：前期：①環境政治に関する専門書を輪読します。②NPO 等との協力を得て、里山保全・環境教育等への実践的参加・参与型観察などを実施します。

後期（卒業研究準備演習）：社会科学の研究デザインについての専門書、および、複数の事例研究論文を並行して読み、論理的思考力や発想力を鍛え、卒業研究の立案へとつなげます。いずれも座学に加えて、フィールド体験を重ねることも大切にしています。

主な執筆論文・文献

「COP30・国際規範化される気候ガバナンス」外交 Vol.95, 54-59, Jan/Feb 2026.

「樹冠被覆率の低下が冷房エネルギー消費に及ぼす影響—宇都宮大学峰キャンパスにおける環境・経済・ガバナンスの統合分析—」(共著)宇都宮大学国策学部研究論集 61, 13-27, 2026

「スウェーデンにおける Sustainability と well-being の統合」(共著)環境情報科学 53 (3), 48-54, 2024.

“Citizen participation in the governance of nature-based solutions” (co-authored with Bernadett Kiss et al.) (2022) *Environmental Policy and Governance*, 32: 247–272.

『奪われた暮らし—原発被害の検証と共感共苦^{コンパッション}』（編著）、日本経済評論社、2022.

“Economic rationalism or administrative rationalism? Curbside collection systems in Sweden and Japan,” *Journal of Cleaner Production*. 12pages, 2020.

『越境大気汚染の比較政治学—欧州、北米、東アジア』、千倉書房、2017.

『原発避難と創発的支援—活かされた中越の災害対応経験』（編著）、本の泉社、2016.

この分野を知るための基本的な文献紹介：

斎藤幸平(2020)『人新世の資本論』集英社

Dixson-Declève,他(2022)『Earth for All 万人のための地球「成長の限界」から 50 年ロークラブ新レポート』丸善出版

卒業論文題目例：

- 「教科書で気候正義は語られているのかー日本の高校英語教科書における環境問題の表出」(2024年度)
- 「都市における緑へのアクセスを巡る一考察-仙台・ミュンヘンの公園をめぐる国際事例比較から」(2024年度)
- 「屋台文化と立つプラスチック両立の可能性-タイの屋台事業者へのインタビューをもとにして」(2024年度)
- 「なぜ日本で地中熱利用が広がらないのか」(2023年度)
- 「欧州・日本・鳥取県の断熱基準の差異をめぐる認識論的考察」(2023年度)
- 「自治体新電力の発展拡大における障壁と課題」(2023年度)
- 「市街地の緑化の衰退と発展」(2023年度)
- 「日本のプラスチック発生抑制への取組みの課題と可能性」(2023年度)
- 「「顔の見える」地域循環共生圏はどのように形成されるのかー栃木県の3つの取組を事例としてー」(2021年度)
- 「スリランカの廃棄物処理場内における労働者の3R活動はなぜ可能になったのか」(2018年度)
- 「ドイツにおける市民の環境活動の多様性」(2016年度)
- 「福島原発事故による避難指示解除を問うー理性的制御モデルを用いたアクター分析を元に」(2016年度)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目/学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目					
	基礎科目	多文化共生コア A (国際関係論)(清水) 多文化共生基礎 E (国際法) 多文化共生基礎 F (国際政治論)			
専門外国語科目		特に指定しません。			
グローバル専門科目	地域研究系		特に指定しません。関心に応じ、存分に受講してください。		
	異文化理解・コミュニケーション系		特に指定しません。関心に応じ、存分に受講してください。		
	国際協力・共生系	ジェンダー論	環境と国際協力(高橋) 地球環境政策論(高橋)、他		
	その他	国際キャリア開発	International Career Seminar、多文化公共圏実践演習グローバル B (高橋)	交換留学 外国語臨地演習	国際キャリア実習
	卒業研究関連			環境と国際協力演習(高橋) 卒業研究準備演習(高橋)	卒業研究 I・II(高橋)
基盤教育科目		SDGs 入門			



多文化共生教育演習

Seminar on Education for Multicultural Society

立花 有希 TACHIBANA Yuki

キーワード：外国人児童生徒等教育、異文化間教育、言語的多様性

学問的特徴：多文化共生のための教育は、異文化間教育や国際理解教育といった学問領域で論じられてきました。本演習では、多文化共生に向けた教育について、その課題と展望を国内外の関連文献を参照しながら検討、考察します。言語や文化を人間の発達や社会的関係の文脈で理解することが求められるので、さまざまな授業を通してその素地を養っておいてください。

専門分野：比較教育学、異文化間教育—ドイツの学校における異文化間教育について研究してきました。特に、移民背景を持つ子どもへの言語教育に関して、理論、政策、実践の各次元からアプローチしています。

指導方針：3年次の演習では、異文化間教育に関する国内外の文献を読み進めます。同時に、各自の興味・関心を発展させて個別のテーマを設定し、関連する文献・資料を収集、分析することを通じて、自身の課題意識を明確にすると共に、学術的な表現方法について実践を通じた学習を行います。自ら問いを立て、考察し、論述するのは確かに大変な作業ですが、知的探究心と知的発見の喜びとが相乗的に高まっていく感覚をぜひ経験してほしいと願っています。

主な執筆論文・文献：

イングリト・ゴゴリン／ヴィオラ B・ゲオルギ／マリアンネ・クリューガー＝ポトラッツ／ドロリト・レンゲル／ウーヴェ・ザントフクス編著、立花有希／佐々木優香／木下江美／クラインハーペル美穂訳 (2024) 『異文化間教育ハンドブック：ドイツにおける理論と実践』明石書店。
立花有希 (2023) 「ドイツにおける Bildungssprache 概念の理論的・実践的展開：言語教育を通じた包摂に関する一考察」『ことばと社会』25号、三元社。

この分野を知るための基本的な文献紹介：

異文化間教育学会編著 (2022) 『異文化間教育事典』明石書店。
恒吉僚子／額賀美紗子編 (2021) 『新グローバル時代に挑む日本の教育—多文化社会を考える比較教育学の視座』東京大学出版会。

卒業論文題目例：

「オーストラリアの反レイシズムに関する取り組み—日本の多文化教育構想の上での手がかりとして」(16年度)

「在日コリアンのアイデンティティ—民族教育と本国イメージに着目して—」(21年度)

「ひとり親世帯の子どもに対する教育支援の検討—フランスの事例とインタビュー調査から—」(24年度)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目 基礎科目		多文化共生基礎C (文化人類学)	多文化共生基礎H (国際社会論)		
専門外国語科目		特に指定しない			
グローバル専門科目	地域研究系		民族誌学		
	異文化理解・ コミュニケーション系		哲学概論		
	国際協力・共生系	ジェンダー論	人の国際移動 多文化共生教育(立花) Intercultural Education (立花)	グローバル化と外国にルーツをもつ子どもの教育	
その他		国際キャリア教育	International Career Seminar	交換留学 外国語臨地演習	国際キャリア実習
卒業研究関連				多文化共生教育演習(立花) 卒業研究準備演習(立花)	卒業研究I・II(立花)
基盤教育科目		社会と人間への扉(多文化共生論入門)(立花)		3.11と学問の不確かさ(基盤教養科目・社会と人間への扉・清水)	



国際社会論演習

Seminar in Transnational Sociology

申 惠媛 SHIN Hyewon

キーワード：社会学、移民、エスニック・マイノリティ、日本社会の多文化・多国籍化、地域社会

学問的特徴：社会学とは、「異なる人間たちが、限られた空間のなかでともに住み合っていくことを可能にする知恵あるいは仕掛けの総体」（長谷川・浜・藤村・町村 2019: 2）としての社会をめぐる学問です。グローバル化が進展し人の国際移動がますます活発化するなか、移民やエスニック・マイノリティとともに住み合い織りなされていく社会関係を探ることは、より複雑で、重要な課題となっています。広い視野をもちながら、具体的な事例に関心を向ける姿勢が求められます。

専門分野：多文化・多国籍化する日本社会を主なフィールドに、特定の地域において移民、エスニック・マイノリティがどのようなコミュニティやネットワークを形成し、そのことが既存の社会関係にどのような変化をもたらすかについて多角的に分析してきました。中でも、観光地化が進展したエスニック・タウンをはじめとする都市のエスニック空間、エスニック・ビジネス等を事例に研究しています。

指導方針：3年次の演習では、分野に関連する文献を輪読し、「多文化共生基礎II」や「人の国際移動」で修得した知識・視座に関する理解を深めます。その上で、各自の関心に沿ったテーマを決め、関連文献の探索、調査、分析、発表に取り組みます。主体的に問いを深めていくと同時に、それをすでになされてきた諸研究の上に位置づけることが重要です。その方法についても一緒に学んでいきます。

主な執筆論文・文献：

- 申惠媛 (2024) 『エスニック空間の社会学——新大久保の成立・展開に見る地域社会の再編』新曜社.
- 申惠媛 (2021) 「エスニックな観光地「新大久保」の形成条件——エスニック・コミュニティと観光地化の連続性に関する考察」『年報社会学論集』(34): 131-142.
- 申惠媛 (2019) 「「開かれた」地域社会の重層性——エスニックな観光地化する「新大久保」の事例から」『アメリカ太平洋研究』(19): 37-48.
- 申惠媛 (2016) 「「新大久保」の誕生——雑誌が見た地域の変容」『年報社会学論集』(29): 44-55.

この分野を知るための基本的な文献紹介：

- 山本かほり・李洪章・松宮朝編 (2025) 『エスニック・マイノリティの社会学』有斐閣.
- 永吉希久子 (2020) 『移民と日本社会——データで読み解く実態と将来像』中央公論新社.
- 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬 (2019) 『新版・社会学』有斐閣.
- Castles, S. and Miller, M. J. (2009) *The Age of Migration: International Population Movements in the Modern World* (4th edition), Basingstoke, UK: Palgrave Macmillan = (2011) 関根政美・関根薫訳『国際移民の時代 [第4版]』名古屋大学出版会.

卒業論文題目例：

- 「ハイブリッド志向型」エスニック・アイデンティティの形成過程における影響要因—栃木県在住の日系ブラジル人移民第 1.5 世代の事例から— (24 年度)
- 社会的排除／包摂の観点から見る多文化共生関連施策—共生社会の実現可能性の検討— (24 年度)
- 外国人留学生在が日本での就職活動で抱える苦悩と大学における支援—留学生の国家選択と企業選択に焦点を当てて— (24 年度)
- エスニックな魅力を持つ商店街はどう生き残っていくか—東京都台東区アメ横商店街の事例から— (25 年度)
- 外国人高齢者への言語支援の現状と展望—複数の「壁」とその乗り越えに注目して— (25 年度)
- 移住システム論から見る進学予備校の機能—中国人留学生向け進学予備校の事例から— (25 年度)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目	基礎科目	多文化共生基礎 A (Comparative Study of Culture) F (国際政治論)	多文化共生基礎 H (国際社会論) C (文化人類学)		
	専門外国語科目	特に指定しません。関心に沿って履修してください。 (教員の担当科目は韓国朝鮮語関連)			
グローバル専門科目	地域研究系		地域社会論		
	異文化理解・コミュニケーション系	国際事象の実証分析	社会調査法入門		
	国際協力・共生系	ジェンダー論	人の国際移動 多文化共生教育 移民と多文化教育		
	その他	国際キャリア教育	International Career Seminar	交換留学 外国語臨地演習	国際キャリア実習
	卒業研究関連			国際社会論演習 卒業研究準備演習	卒業研究 I・II
基盤教育科目		各自の関心に沿って履修してください (教員の担当科目は韓国・朝鮮語基礎 I・II、初修外国語への誘い)	社会学領域の科目等、各自の関心に沿って履修してください		



国際協力論演習 Seminar in International Cooperation

栗原 俊輔 KURIHARA Shunsuke

キーワード：国際協力、国際開発、市民社会、参加型開発手法、ファシリテーション、南アジア

学問的特徴：国際協力は横断的分野であり、その専門性も多岐にわたる。また、国際協力、国際開発、開発援助など、類似の言葉で語られることも多いが、その指すところはそれぞれ違い、その全貌は極めて曖昧である。貧困削減などの伝統的なアプローチだけでなく、災害や紛争、消費財を通じた先進国と途上国の格差等、21世紀に入り、その文脈の複雑性は増している。制度としての国際協力だけでなく、市民社会と国際協力のかかわりとその多様性について研究する。

専門分野：国境を越えた問題、先進国と途上国間での様々な格差や不平等および市民のかかわりについて研究。現在はスリランカの紅茶（セイロンティー）を通じたスリランカ側紅茶農園コミュニティと世界の消費者との平等なつながりと市民社会の役割を研究。

指導方針：3年次の演習では、国際協力を制度と実践の観点から検証し、その概観を把握・理解した上で具体的な問題や地域などを学生それぞれが選択し追っていく。政府開発援助（ODA）だけでなく、NGOや国連機関、民間企業等様々なアクターの取り組みを総合的に俯瞰したうえで、最も周辺化された人びとにとっての真の支援とは何か、誰が支援すべきか、研究していく

主な執筆論文・文献：

- 栗原俊輔（2024）「現地 NGO による農園コミュニティ支援のいま—スリランカ・プランテーション民営化 30 年と文脈の変化への対応—」『宇都宮大学国際学部研究論集』第 57 号。
- 栗原俊輔（2020）『ぼくは 6 歳、紅茶プランテーションで生まれて。』合同出版。
- 栗原俊輔（2020）「街の玄関としての駅の付加価値 — 宇都宮おもてなし隊の活動と可能性 —」『宇都宮大学国際学部研究論集』第 50 号。
- 栗原俊輔（2017）「Just Unchanged or Worse? – Household livelihood of Estate Tamils in the tea plantations of the Upcountry Sri Lanka—」『宇都宮大学国際学部研究論集』第 44 号。

この分野を知るための基本的な文献紹介：

- アマルティア・セン（東郷えりか訳）（2006）『人間の安全保障』 集英社新書
- 植村邦彦（2010）『市民社会とは何か』 平凡社新書
- 功刀達朗・野村彰男編著（2008）『社会的責任の時代』 東信堂

卒業論文題目例：

「3.11 から見えた教育支援ニーズの変遷 -山形県の自主避難者を例に-」(16年度)

「台湾における先住民族への認識～野球が果たす役割とこれから～」(17年度)

「フィリピンの貧困削減におけるマイクロファイナンスの有効性と成立条件」(18年度)

「カンボジアにおける学校教育支援の実際と課題」(19年度)

「難民のエンパワーメントに向けた難民支援活動の役割・ウガンダの難民開発援助における人間開発の課題」(2020年度)

「子どもの貧困が放課後活動に与える影響と支援の考察」(2022年度)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目		多文化共生基礎E (国際法)			
基礎科目		多文化共生基礎F (国際政治論)			
専門外国語科目					
グローバル専門科目	地域研究系		地域社会論		
	異文化理解・ コミュニケーション系		公共政策入門 社会調査法入門		
	国際協力・共生系	ジェンダー論	アフリカ論 国際協力論(栗原) 国際機構論 Global Management: Asia and Development		
その他	国際キャリア教育	International Career Seminar	交換留学 外国語臨地演習	国際キャリア実 習	
卒業研究関連			国際協力論演習 (栗原) 卒業研究準備演 習 (栗原)	卒業研究I・II (栗原)	
基盤教育科目	基盤キャリア実習 B(課 題解決型フィールドワーク) (栗原)				



国際関係論演習

Seminar in International Relations

清水 奈名子 SHIMIZU Nanako

キーワード：戦争・平和・安全保障・国際機構・人間の安全保障・原発震災

学問的特徴：法学と政治学を中心に、国際関係の構造や制度を考察します。各学生の興味に応じて、法学と政治学の分野に限定せずに、地域研究や思想、歴史に関わる科目も履修してください。

専門分野：主に国際連合の安全保障体制について研究しています。国際関係を考察する際に、国際連合のような制度に注目して、紛争の予防や解決、紛争後社会の再建の問題を考察しています。2011年の原発震災後は、人間の安全保障と原発事故被害の関係についても研究を続けてきました。

指導方針：3年次の演習において、基本的な学術論文をしっかり読み込む作業を重視します。この作業を通して、学術論文とはどのような形式と水準で書くものなのかを理解してほしいからです。国際関係論、国際機構論、国際法、国際政治の知識を前提に進めますので、2年次までにこれらに関連する科目を履修しておいてください。また英語文献や資料も使用しますので、英語の読解力を鍛えておきましょう。

主な執筆論文・文献：

清水奈名子（2011）『冷戦後の国連安全保障体制と文民の保護—多主体間主義による規範的秩序の模索』日本経済評論社。

清水奈名子（2022）「人権問題としてのジェンダー格差—東電福島原発事故被害から考える」『ジェンダー研究』第24号。

清水奈名子（2024）「学問の社会的責任とは何か—原発事故後の調査研究をめぐる考察」清水奈名子・藤井広重編『探究の国際学—複合危機から学際的な研究を考える』ナカニシヤ出版。

清水奈名子（2024）「国連システムと法の支配—主権国家体制を前提とした国際法秩序の課題」日本国際連合学会編『主権国家体制と国連』国際書院。

この分野を知るための基本的な文献紹介：

日本平和学会編（2018）『平和をめぐる14の論点』法律文化社。

片柳真理・坂本一也・清水奈名子・望月康恵（2022）『平和構築と個人の権利—救済の国際法試論』広島大学出版会。

高橋若菜編（2022）『奪われたくらし—原発被害の検証と共感共苦』日本経済評論社。

日本平和学会編（2023）『平和学事典』丸善出版。

清水奈名子・藤井広重編（2024）『探究の国際学—複合危機から学際的な研究を考える』ナカニシヤ出版。

石田淳他編（2024）『国際平和論—脅威の認識と対応の模索』有斐閣。

卒業論文題目例：

「国連加盟国が認識する共通利益の変遷とその実現を巡る議論—『国際の平和と安全の維持』に注目して—」(22年度)

「核兵器の禁止における人道的アプローチと核廃絶の枠組み」(22年度)

「現代中国における国際機関外交研究と制度的リベラリズム —「大国としての責任」から読み取るPKO参加要因分析」(22年度)

「南シナ海における日・ASEANの海洋安全保障政策 —米中関係とASEAN諸国の動向に焦点を当てて」(23年度)

「日本の自衛に関する安全保障政策について —2022年版国家安全保障戦略の3文書改定に着目して—」(24年度)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目		多文化共生コア A (国際関係論)(清水)			
基礎科目		多文化共生基礎 E (国際法)			
		多文化共生基礎 F (国際政治論)			
専門外国語科目		特に指定しない			
グローバル専門科目	地域研究系		中東地域研究 近現代中国論	Japan's International Relations (清水)	
	異文化理解・ コミュニケーション系		対人コミュニケーション論		
	国際協力・共生系	ジェンダー論 International Human Rights Law in Theory and Practice	国際協力論 アフリカ論 地球環境政策論 国際機構論(清水) International Protection of Human Rights		
その他		国際キャリア教育	International Career Seminar	交換留学 外国語臨地演習	国際キャリア 実習
卒業研究関連				国際関係論演習 (清水) 卒業研究準備演習 (清水)	卒業研究 I・II (清水)
基盤教育科目		戦争と平和をめぐる諸 問題(グローバル化の 世界 B・清水)	3. 11 と学問の不確かさ(基 盤教養科目・社会と人間への 扉・清水)		



国際法演習

Seminar in International Law

藤井広重 FUJII, Hiroshige

キーワード：国際人権/人道法、国際刑事裁判所、国連平和維持活動、平和構築、移行期正義、アフリカ政治

学問的特徴：本演習が扱う国際法は、教科書の中だけで完結しません。向き合うのは、生身の社会・血の通った法の問題です。紛争の爪痕が残る地域で、国際刑事裁判所（ICC）は本当に正義を届けられるのか。国連平和維持活動（PKO）は現地社会や和解プロセスにどんな影響を与えるのか。紛争を経験したアフリカの現場から見えてくるのは、“国際法は必ずしも人を救わない”という現実と、それでもなお人々が正義を必要とし続けるという希望です。本演習では、現代アフリカを中心に、国際秩序と国内政治の連関を紐解き、制度としての国際法と現場が希求する平和とのギャップを問い続けます。さらに本研究室は、宇都宮大学と ICC との学術協定（2025 年）を基盤とし、日本でも稀有なグローバル・ジャスティス研究ネットワークの拠点です。この連携のもと創設された Utsunomiya University Global Justice & Peace Research Institute (UU-GJP) では、世界的研究者との交流や国際プロジェクトが推進されています。国際法演習は、その最前線の入口です。机上の学びを越え、「世界の正義と平和をどう実現するのか」という問いと、本気で向き合ってみてください。

専門分野：国際人権・人道法、平和構築論、現代アフリカ政治：アフリカと法をテーマとした研究に取り組んでいます。とりわけ、アフリカにおける紛争後の平和構築において、国際的な刑事裁判所の活動や期待されている“役割”が、現地社会や国連平和維持活動（PKO）などの他の国際的なアクターに対し、如何なる影響を与えているのかについて理論的分析や現地調査を踏まえた事例研究にも力を入れています。また、子どもの権利をテーマに国際人権ワークショップにもゼミ生とともに取り組んでいます。

指導方針：本演習に参加した後、希望者は、模擬裁判やロールプレイの国際大会への出場を目指して、更に学びを深めることができます。人道や人権の理論と実践の両輪を大事に指導しています。本研究室には、進学希望者が多く集まっています。進学した学生は国連、ICRC、国際 NGO などのインターン生、大使館での専門調査員、JICA の正規職員、グローバルな企業に採用されてきました。このような国際機関、援助機関および国際 NGO での勤務や大学院進学を考えている方および国家公務員等での試験科目で国際法を選択予定の方は積極的にご相談ください。希望があれば政府機関や国際機関への訪問、途上国でのフィールド・スタディも調整します。2024 年はエチオピア、2025 年はオランダでゼミ合宿を行い、国際機関や大使館を訪問しました。これまでにない多くの学びに直面しますので、厳しい演習だと思いますが、自分の力で世界を切り開きたい方にとっては、きっと“始まりの場所”になります。

主な執筆論文・文献：

藤井広重（2026）『現代アフリカの対外政策と国際刑事裁判所』晃洋書房。

藤井広重（2023）「国際刑事法と難民法をめぐる課題に対する一考察：国際刑事裁判所による証人保護と難民条約除外条項の適用をめぐる分析を通して」（査読付）難民研究ジャーナル第 11 号，（第 9 回若手難民研

究者奨励賞受賞)

藤井広重他 (2022) 「国際人権教育における子ども・若者参加の実践と課題：『人権』と『参加』をめぐる課題解決型学習 (PBL) の試み」『宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター年報』第 13 号.

この分野を知るための基本的な文献紹介：

遠藤貢編 (2016) 『武力紛争を越える：せめぎ合う制度と戦略のなかで』京都大学学術出版会.

Schabas, William (2020) *An Introduction to the International Criminal Court 6th ed.*, Cambridge University Press.

阿部利洋 編 (2025) 『グローバル正義の変容』ナカニシヤ出版.

赤根智子 (2025) 『戦争犯罪と闘う 国際刑事裁判所は屈しない』文藝春秋 (新書) .

卒業論文題目例：

「国際刑事裁判所 (ICC) における管轄権と普遍管轄権の競合をめぐる考察」 (25 年度)

「アフリカにおけるテロリズム対策の法的枠組みの変容」 (25 年度)

「庇護申請者の人権保障による理想と受け入れ国の現実」 (25 年度)

「国際刑事裁判所 (ICC) における被害者賠償メカニズムの実態」 (25 年度)

「ジェノサイド罪に対する上官責任の検討」 (25 年度)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目	基礎科目	多文化共生基礎E (国際法)(藤井) 多文化共生基礎F (国際政治論)			
	専門外国語科目				
グローバル専門科目	地域研究系		中東地域研究		
	異文化理解・ コミュニケーション系		対人コミュニケーション論		
	国際協力・共生系	ジェンダー論 International Humanitarian Law in Theory and Practice(集 中講座)(藤井)	アフリカ論 International Protection of Human Rights (藤井) 国際機構論		
その他	国際キャリア教育	International Career Seminar	外国語臨地演習		
卒業研究関連			国際法演習(藤井) 卒業研究準備演習	卒業研究 I・II (藤井)	
基盤教育科目		武力紛争と人権(藤井)			



国際政治論演習 Seminar in International Politics

松村史紀 MATSUMURA Fuminori

キーワード：政治学、国際政治、現代史

学問的特徴：戦争や危機は多くのばあい、特定の人間や集団にのみその責任を帰すことは難しい。しかし、後世のひとは断罪すべき悪役を見つけては安心し、もっともらしい「歴史の教訓」を引き出そうとする。「世の中のいざごは、悪意や悪だくみよりも、誤解や怠惰によることのほうがはるかに多いらしいのだ」（ゲーテ「若きウェルテルの悩み」）。過去のひとびとは情報、時間、手段いずれをも制約されるなかで、どのような決断を迫られたのか。この問題を丁寧に考えたい。

専門分野：国際政治史 19世紀に萌芽した総力戦型、そして20世紀後半につくられる冷戦型の国際政治をそれぞれ比較しながら、現代東アジアの国際政治が歴史的にどのような構造をもって形成されてきたのかを考えてきた。具体的には、現代中国をめぐる国際政治の歴史を研究対象にしている。

指導方針：神は些事に宿る。過去の細かい人間の営みに分け入って、そこから人間と社会のありようを広くふかく理解してほしい。狭い分野の専門に固執するよりも、日常生活の手触りを表現できる感性を身に着けてほしい。不条理を選ぶ自由を味わうことができる教養はなによりも尊い。

主な執筆論文・文献：

松村史紀（2011）『「大国中国」の崩壊—マーシャル・ミッションからアジア冷戦へ』勁草書房。

松村史紀（2022）「強制与自主之間：東方陣営圍繞日共武装闘争方針的内部関係（1949-1955年）」徐顕芬・李臻主編『大夏世界史研究』上海：東方出版中心。

松村史紀（2024）「中ソ同盟における北京の自立過程—現代東アジア国際政治の原風景」中国現代史研究会『現代中国研究』第52号。

この分野を知るための基本的な文献紹介：

高坂正堯（1966）『国際政治』中公新書

岡義武（2009）『国際政治史』岩波書店

永井陽之助（2016）『歴史と戦略』中公文庫

衛藤藩吉（2004）『近代東アジア国際関係史』東京大学出版会

プラトン『パイドン』岩波文庫

卒業論文題目例：

- 「『ワシントン体制』の虚構：日本外交の国際協調主義再考（1910~20年代）」（2018年度）
- 「危機下の政策決定から見る現代中国外交」（2020年度）
- 「上海の文化大革命：労働者造反派の奪権過程とその政治力学」（2021年度）
- 「戦後労働運動をめぐるヘゲモニー争い：生産管理にかけた日本共産党の戦略」（2022年度）
- 「シンガポールにおける『華』：華語をめぐる言語政策」（2023年度）

<履修モデル>

科目／学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目		多文化共生コア A (国際関係論)	多文化共生 D (芸術文化論)		
基礎科目		多文化共生基礎 E (国際法)	多文化共生基礎 G (国際経済論)		
		多文化共生基礎 F (国際政治論・松村)			
専門外国語科目		中国語の選択を推奨するが、特に指定しない。	中国語講読 A、C (松村)	中国語講読 B(松村)、D	
グローバル専門科目	地域研究系		近現代中国論(松村) アジアの歴史と思想 中国文化論		
	異文化理解・コミュニケーション系		哲学概論 表象文化論		
	国際協力・共生系		途上国経済発展論 Theory of Global Governance 国際機構論 地球環境政策論		
その他		国際キャリア教育	International Career Seminar	交換留学 外国語臨地演習	国際キャリア実習
卒業研究関連				国際政治論演習(松村) 卒業研究準備演習(松村)	卒業研究 I・II (松村)
基盤教育科目		国際政治史(グローバル化の世界 C・松村) 初修外国語への誘い(人間と文化への扉)			



国際経済論演習

Seminar in International Economy

李 亜姣 LI Yajiao

キーワード：中国・経済発展・土地略奪・土地権・女性労働・金融・債務・ジェンダー格差・貧困

学問的特徴：中国経済社会とジェンダーの理解のもと、先行研究を踏まえ、各自が興味を持つテーマについて考察します。

専門分野：私の研究関心は、ジェンダーと政治経済の問題にあり、主として中国を対象としています。これまで私は、発展途上国における女性の経済的権利を検討する複数の研究プロジェクトに取り組んできました。具体的には、中国における土地開発の過程で、資本蓄積が家父長制と結びつくことによってジェンダー格差がいかにかに生み出されているのか、また、中国の金融化の進展のなかで中産階級女性がどのように債務に巻き込まれているのかを分析しています。

指導方針：3年次の演習では、各自の問題意識に基づいて設定した研究テーマをもとに、文献研究を中心とした基礎的な研究訓練を行います。具体的には、先行研究の読み方、論文や資料の収集方法、研究方法の選択、論理的な思考の組み立て方、論文作成の技術、さらに倫理審査申請書の書き方などについて学びます。4年次には、引き続き文献研究を行うとともに、テーマに応じて実証分析やフィールドワークなどを実施し、卒業論文を執筆します。提出後には卒業論文発表会を行います。また、日本語に限らず、英語や中国語の論文・資料を読解できる力が求められます。1・2年次の段階から十分に語学力を鍛えてください。とりわけ中華圏への留学が望まれます。

主な執筆論文・文献：

YAJIAO LI (2026) *Land Rights and Gender in China: A Feminist Economics Perspective*, Routledge.

李亜姣 (2022) 『現代中国高度成長とジェンダー—農嫁女問題の分析を中心に—』 東方書店.

李亜姣 (2024) 『中国農村人民公社期の土地制度——「包産到戸」およびその論争の中での婦女聯を切口に——』、『中国と日本における農村ジェンダー研究—1950・60年代の農村社会の変化と女性—』 晃洋書房.

李亜姣 (2020) 『改革開放以降の農村女性土地問題に関する報道——「中国婦女報」(1984～2010年)を中心に』、『中国女性史研究』, Vol. 29.

李亜姣 (2018) 『「農嫁女問題」とは——現代中国における進行中の本源的蓄積』、『経済社会とジェンダー』, Vol. 3.

この分野を知るための基本的な文献紹介：

大橋史恵、堀芳枝編 (2026) 『フェミニスト政治経済学』 大月書店.

長田華子・金井郁・古沢希代子編 (2023) 『フェミニスト経済学』 有斐閣.

李亜姣 (2022) 『現代中国高度成長とジェンダー—農嫁女問題の分析を中心に—』 東方書店.

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目 基礎科目		多文化共生基礎 F (国際政治論) H (国際社会論)	多文化共生基礎 G (国際経済論)(李)		
専門外国語科目		特に指定しません。関心に沿って履修してください。			
グローバル専門科目	地域研究系		中国文化論 近現代中国論		
	異文化理解・コミュニケーション系	国際事象の実証分析	社会調査法入門		
	国際協力・共生系	ジェンダー論(李) ミクロ経済学	マクロ経済学 Global political economics 途上国経済発展論		
その他		国際キャリア教育	International Career Seminar (李他) 経済学概論	交換留学 外国語臨地演習	国際キャリア実習
卒業研究関連				国際経済論演習(李) 卒業研究準備演習(李)	卒業研究 I・II (李)
基盤教育科目		各自の関心に沿って履修してください データサイエンス国際 B (李他)	社会学領域の科目等、各自の関心に沿って履修してください		



Disaster Studies 演習 Seminar in Disaster Studies

飯塚 明子 IIZUKA Akiko

キーワード：災害・地域防災・復興・国際協力・NGO・ボランティア・多文化共生

学問的特徴：災害は国内だけではなく世界的に大きな課題です。コミュニティ防災は社会学、地域研究学、心理学、工学、政治学、国際協力学、教育学等の幅広い専門領域を網羅する学際的な学問ですので、興味や関心に応じて、分野や地域に限定せずに科目を履修してください。

専門分野：「災害と国際協力」に関して、これまでに大学の研究員、防災専門 NGO の職員、国連職員という様々な立場から、国内外のフィールド調査をもとに被災地の地域研究や国際協力事業に従事してきました。それらの調査研究や実践活動を通して、外部による支援が被災コミュニティの復興や防災力の向上、また自律的な発展にどのように関与できるのかという点を中心に研究しています。海外の研究に加えて、日本に住む外国人と防災に関する研究も行っています。

指導方針：1、2 年次の科目履修を通して、災害と国際協力に関する基本的な概念や理論を理解し、興味のある地域や分野、そしてどうして興味を持ったかという問題意識を醸成してください。3 年次の演習では論文の構成について、研究テーマの設定と絞り込み、また関連する文献読解や資料収集を行い、その問題意識を学術的な卒業研究に発展させていきます。短期・長期留学を経験したい方、将来 NGO、国際機関等での就職を希望する方、また海外の事例をテーマに研究したい方は、英語で研究（情報収集や文献読解、発表等）をすすめ、英語で卒論を執筆することを推奨します。

主な執筆論文・文献：

- 飯塚明子 (2022) 「留学生の防災意識と日本語能力の関係についての考察」『地域安全学会論文集』 41.
- 飯塚明子・石田祐 (2021) 『東日本大震災の教訓—復興におけるネットワークとガバナンスの意義』ミネルヴァ書房, (共訳) .
- Iizuka Akiko (2022) “Disaster perception and preparation among foreign versus local university students in Japan: A comparative study”, *Progress in Disaster Science*, 15.
- Iizuka Akiko, Aldrich P. Daniel (2021) “Attracting Altruists: Explaining Volunteer Turnout during Natural Hazards in Japan”, *Disasters*.
- Iizuka Akiko (2021) “Local performing arts and recovery from the Great East Japan earthquake and tsunami: A descriptive qualitative study”, *International Journal of Disaster Risk Reduction*, 63.

この分野を知るための基本的な文献紹介：

- Ben Wisner, et al. (2004) *At risk: Natural hazards, people's vulnerability and disasters*, Routledge.
- Demon P. Coppola (2015) *Introduction to International Disaster Management*, Elsevier.

卒業論文題目例：

- 「被災地の若者が考える『復興』とは何か—震災10年目の岩手県陸前高田市を事例に—」
- 「災害時における在日外国人支援の在り方を考える—3つの実践事例の検証を通じて—」
- 「東日本大震災における国際協力について—DAC評価基準6項目を用いて—」
- 「平常時の『やさしい日本語』を使った防災に関する考察」
- 「ドイツに学ぶ共助の観点から考える災害に強いまちづくり—青森県三戸町を事例に—」
- 「新潟県中越地震の被災地における防災教育—中学生へのアンケート調査の結果から—」

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目	基礎科目	多文化共生基礎 A (Comparative Study of Culture) F (国際政治論)	多文化共生基礎 H (国際社会論) C (文化人類学)		
	専門外国語科目		Academic English Writing		
グローバル専門科目	地域研究系		地域社会論		
	異文化理解・コミュニケーション系		社会調査法入門		
	国際協力・共生系	ジェンダー論	Disaster Studies (飯塚) 人の国際移動 国際協力論		
	その他	国際キャリア教育 外国語臨地演習	Risk Management (飯塚)	交換留学	
	卒業研究関連			Disaster Studies 演習(飯塚) 卒業研究準備演習(飯塚)	卒業研究 I・II (飯塚)
	基盤教育科目	グローバル入門 世界を知る、学ぶ、行動する (異文化理解の世界C) (飯塚)			

5. レポート／論文作成の際の注意事項（研究倫理）

(1) 大学で「文章力」を鍛えるメリット なぜ「自分で書いた文章」が大切なのか

大学では、授業に関するコメント、提出課題のレポート、そして卒業論文にいたるまで、たくさんの文章を書くことが求められます。「文章力」を身につけることは、将来どんな職業を選んだとしても必ず必要になる重要な能力です。

大学で過ごす4年間の間に、自分で調べ、自分で考え、自分で文章を作り上げる作業をくり返すことで、この「文章力」を身につけることができます。

そのためには、レポートや論文が「自分で書いた文章」でなくてはなりません。他人の文章を写すだけで済ませてしまうと、そのときは楽をできますが、結局本当の「文章力」を養うことはできないからです。

「文章力」を養うのは、社会に出てからではもう遅いのです。せつかく4年という長い時間を大学で過ごすのですから、今のうちにしっかりと「文章力」を身につけ、自分の書く文章に自信がもてるようになってもらえればと思います。

(2) コピー・ペーストはなぜ禁止されているのか

みなさんは、コピー・ペーストの問題について聞いたことがありますか？ 他人や生成AIが書いた文章をそのまま丸写しして、まるで自分が書いた文章であるかのように偽ることで、社会的にも大きな問題となっていますし、犯罪行為として扱われる例もあるほどです。

大学におけるコピー・ペーストとは、**他の文献、資料、新聞雑誌、インターネット情報、AIによって作成された情報、他人の書いたレポートの丸写し**などのことです。このような行為は、**試験のカンニングと同じ「不正行為」**として禁止されており、単位の取り消しなどの処分の対象となります。

他人や生成AIの書いた文章を自分のものと偽ることは、他人の権利を侵すという意味で倫理的かつ法的に問題であるだけでなく、せつかくの「文章力」を身につける機会を自分でつぶしてしまうことにもなります。大学で勉強する意味が失われてしまうのです。

(3) だれにどのような迷惑がかかるのか／どのような問題が起きるのか

コピー・ペーストをしても、誰にも迷惑がかからないのだから構わないじゃないか。そう考える人もいるかもしれません。しかし本当に何の問題も起きないのでしょうか。

大学内でコピー・ペーストなどの不正行為が多く見られるようになると、大学側もその防止のために様々な対策をとらなくてはなりません。みなさんが自分で書いた文章であることを証明する「宣誓書」を毎回のように要求し、すべてのレポートを徹底的に調べあげ、不正行為が見つかった場合には厳重に処分せざるをえなくなってしまいます。

本来ならば、教員と学生間の信頼にもとづいて自由にいきいきと学問にいそしむ場であるはずの大学が、学生の行ないにいちいち目を光らせるという、なんとも不自由でぎすぎすした管理・監視の組織になってしまうことでしょう。安易に不正行為に手を染めることは、結果として大学という自由な学びの場に深刻な影響をもたらしかねないのです。

社会に出てから、仕事のなかでコピー・ペーストを行った場合は、問題はさらに深刻になります。状況によっては犯罪行為とみなされ、自分の会社や組織全体に多大な迷惑と損害を与えることにもなるでしょう。他人の文章を丸写しすることが、いかに多くの人々に迷惑をかける危険性を持つかということを、今からしっかり自覚しておくことが必要なのです。

(4) 不正行為にならないための正しい引用方法

注意しましょう！たしかに丸写しをすることは問題ですが、他の文献や資料を「引用」してはいけないというわけではありません。むしろ学問的にレベルの高い文章を書くためには、多くの参考文献や資料を使うことが求められます。

そのため、文章を作成するときの「引用」については多くのルールや方法が決められています。これらのルールは、大学においてだけでなく社会に出てからも、また海外においてもきちんと通用するものです。丁寧にしっかり調べて書いた文章であることを証明するためにも、正しく的確な引用方法を身につけておきましょう。

(5) 生成 AI 使用時の注意点

また、近年、ChatGPT などの生成 AI を、文章作成の補助として利用することが可能になってきました。大学では生成 AI の使用は禁止されていませんが、使用する場合には注意が必要です。特に、生成 AI の出力は誤り（ハルシネーション）を含むことがあります。そのため、生成 AI が示した情報をそのまま信用せず、重要な事実関係については、必ず信頼できる文献や資料を用いて自分で確認することが不可欠です。また、プライバシーや機密性の高い情報を生成 AI に入力しないように注意しましょう。

生成 AI によって作成された文章を、自分で考えた文章であるかのようにそのまま書き写してレポートや学位論文を作成した場合、コピー・ペーストと同様に不正行為とみなされ、処分の対象となる場合があるので、注意してください。生成 AI の出力を引用する場合は、以下の＜引用の具体例＞に示すように、その出所を明示し、正しい引用のルールに従って記載しなければなりません。生成 AI の出力を引用した場合であっても、その内容の責任は引用者である文章の執筆者が負うこととなります。出力結果に盗用などがあった場合には、引用者である執筆者の責任となることに留意してください。

授業や課題において生成 AI の利用が認められているかどうか、またどのような使い方が許されているかについては、必ず担当教員の指示に従ってください。

<引用に関する基本的なルール>

① どの文章が執筆者自身の文章で、どの文章が引用したものであるかを明確に区別していること。

② 引用した情報や文章の出典を、正確にのせていること。

以下では、正しい引用方法の具体例を紹介しますので、今後の学習のなかでいつも参照するようにしましょう。

<引用の具体例>

例① 文献・資料の短い文章をそのまま引用する場合

「 」で引用文をくくり、出典情報を添える。

(文例①)

丸山によれば、自由とおなじように民主主義もまた「不断の民主化によって辛うじて民主主義でありうる」(丸山1961、157 ページ) のだという。

例② 文献・資料の長い文章をそのまま引用する場合

段を下げて引用文を書き、出典情報を添える。

(文例②)

1946年12月、『文学季刊』第二号に寄せた文章において、坂口安吾は昭和天皇と敗戦の関係に関して次のように述べている。

たえがたきをたえ、忍びがたきを忍んで、朕の命令に服してくれという。すると国民は泣いて、外[ママ]ならぬ陛下の命令だから、忍びがたいけれども忍んで負けよう、と言う。嘘をつけ！ 嘘をつけ！ 嘘をつけ！ (坂口1989、222 ページ)

例③ 文献・資料の文章を、執筆者自身の文章の中にまとめて引用する場合

引用していることが分かる文体で書き、出典情報を添える。

(文例③)

加藤によれば、散文は歩くようなものであり、詩は踊るようなものだというポール・ヴァレリーの説明は、詩と散文の最も鋭い区別の仕方であるという (加藤2009、19 ページ)。

例④ 生成 AI の出力を引用する場合（担当教員からの許可があった場合）

注意事項：以下は記載例のため、適宜教員の指示にしたがってください

生成 AI を使用したことが分かるよう、入力した文と出力を明示し、出典情報を添える。（AI による回答が長い場合は、本文中で要約や抜粋を引用し、「（回答の全文は付録を参照）」等と明記した上で、付録に回答の全文を掲載してもよい。）

（文例④）

ChatGPT は「第二言語習得の特徴を挙げよ。」というプロンプトに対して、「1.母語の転移」、「2.中間言語の形成」、「3.発達段階の存在」、「4.化石化」、「5.年齢要因の影響」、「6.個人差」、「7.インプットの重要性」という 7 項目を回答した（OpenAI 2025）。

<出典情報の記載例>日本語

作成元 年 式 生成 AI の名称 バージョン
OpenAI (2025) ChatGPT (3 月 14 日版) [大規模言語モデル]. URL <https://chatgpt.com/>
(2026 年 1 月 7 日作成)。

英語

OpenAI (2025) ChatGPT. (March 13 version) [Large language model],
<https://chatgpt.com/> (January 7, 2026).

<文献・資料情報の記載例>

引用の出典として記した文献・資料は、レポートや論文の巻末に「参考文献・資料リスト」としてまとめて記載します。記載する必要があるのは、**編著者名（訳者名）、出版年、書名、出版社名**などです。並べる順番は、日本語文献の場合には著者名（苗字）のあいうえお順とするのが一般的です。また新聞や雑誌、ウェブサイトの情報も、以下のように必ず出典情報を記しましょう。

またより詳しい手引きとしては、**酒井浩二著『論理性を鍛えるレポートの書き方』ナカニシヤ出版**（2009年）などを参照してください。

例① 著者が1冊の本をすべて執筆している文献

著者名 出版年 書名 出版社名
丸山真男（1961）『日本の思想』岩波書店

例② 著者が1冊の本をすべて執筆している翻訳文献

著者名 訳者名 出版年 書名
オノレ・ド・バルザック（野崎歓・青木真紀子訳）（2000）『幻滅——メディア戦記（上）』
出版社名
藤原書店

例③ 本のなかの一つの文章を引用する場合

著者名 出版年 論文名 本の編著者名 書名 出版社名 掲載ページ
坂口安吾（1989）「続墮落論」（同）『日本論』河出書房新社 217 - 228 ページ

例④ 雑誌のなかの論文を引用する場合

著者名 出版年 論文名 雑誌名 巻号数
加藤周一（2009）「私のヴァレリー」（『現代思想』7月臨時増刊号 第37巻第9号
掲載ページ
8 - 27 ページ

例⑤ 新聞記事を引用する場合

新聞紙名 年月日 掲載紙面
朝日新聞（2009年11月13日）朝刊第3面

例⑥ ウェブサイトの情報を引用する場合

ウェブサイトのタイトル URL アクセス年月日
宇都宮大学国際学部：<http://www.kokusai.utsunomiya-u.ac.jp/>（2020年12月12日参照）

6. 国際学部・国際学研究科倫理綱領・ガイドライン・問題事例

Code of Ethics / Specific Guidelines/ Problematic Cases of the Faculty of International Studies and the Graduate School of International Studies

1 倫理綱領

Code of Ethics

教員（非常勤を含む）、職員（非常勤を含む）、学生から成る本学部の関係者は、以下の原則に従って行動する。

Members of this faculty including the students, faculty members and staff (including the part-time lecturers and staff) shall follow the following principles.

- 1) 学部全般に係る活動において、常に基本的人権と個人の尊厳を尊重する。
We will always respect the basic rights and dignity of others in our work and activities.
- 2) 国際学部の教育目標の実現に資するために、学部全般に係る活動に関して、改善と向上に努める。
We will keep striving for excellence in our work and activities in order to achieve the educational objectives of the faculty.
- 3) 個人情報の保護に最大限の注意を払う。
We will make our utmost efforts to protect personal information.

2 倫理綱領に基づく個別ガイドライン

Specific Guidelines based on the Code of Ethics

以上の倫理綱領に基づき、特に以下の点について配慮をして行動する。

We will be always aware of the following guidelines based on the Code of Ethics.

- 1) 人種やジェンダー、言語、宗教、国籍、社会的背景、年齢等が異なる多様な関係者によって構成されている学部であることに留意しつつ行動する。
We will act with the awareness of diversity of the members in terms of race, gender, language, religion, nationality, social background or age.
- 2) 食事や信仰生活を含む生活様式を尊重する。
We will respect the lifestyles of the members including food and religious life.
- 3) ハラスメントに該当する行為は決して行わない。
We will not engage in any acts of harassment.
- 4) ハラスメントに関する情報を得たり相談を受けた場合には、放置せずに対応する。
When we receive any report or request of consultation in relation to the harassment, we will not ignore these reports but will respond.
- 5) 学生による主体的な学びを尊重し、その提案や意見を積極的に取り入れる。
We will respect the active learning of the students and will actively realize their ideas and opinions.

3 具体的な過去の問題事例

Problematic Cases in the Past

事例 1) 国籍による差別発言

Case 1) Discriminatory remarks against a certain nationality

ある関係者から「A 国人は泥棒だ」といった国籍による差別的な発言があり、その国籍を有する他の関係者の尊厳が傷つけられる事態が発生した。

One of the members made discriminatory remarks such as “people from country A are burglars.”

Consequently, the dignity of another member from country A was compromised.

事例 2) ジェンダーや多様性への配慮を欠いた発言

Case 2) Remarks showing a lack of consideration for gender and diversity

ある関係者が、男性的な服装をしている女性に対して、「いい歳なのだから、もう少し女性らしくしないと」とジェンダーに関する配慮に欠ける発言があった。その結果、トランスジェンダーであるその女性の尊厳が傷つけられる事態が発生した。

One of the members said to another female member who always wore masculine clothing, “Now that you are old enough you should appear more feminine.” Because of this remark lacking consideration for gender and diversity, the dignity of the transgender person was severely compromised.

事例 3) ハラスメントに該当する行為や発言

Case 3) Acts and Remarks of Harassment

ある男性が懇親会で他者に酒を飲むようにしつこく勧め、男女問わず「付き合っている人はいるのか」等と質問をして無理に答えを聞こうとしたり、女性に対して酔っ払いながら「肩をもんでくれ」と頼んだりした。

One of the male members repeatedly asked other members to have drinks at the party and persistently questioned whether he/ she had a partner. After drinking liquor, he asked one of the female members to massage his shoulders.

事例 4) 許可を得ないで行う個人情報や写真の使用

Case 4) Use of personal information and photographs without permission

ある関係者が、他の関係者の連絡先などの個人情報や撮影した写真を、相手の許可なく SNS などを使って公開し、別の目的で利用した。

One of the members used personal information and photographs of other members on SNS media for unrelated purposes and without permission.

注記：本文書にある「学部」とは、国際学部及び国際学研究科を指すものとする。

Note: In this document, “faculty” means the Faculty of International Studies and the Graduate School of International Studies.

* トランスジェンダーとは、出生時に決定された性別に性的違和（性同一性障害）があり、性別を変えて生活していたり、性別を変えたいと思っている人（性と人権ネットワーク作成パネル、2014年）。Transgender is the state of one's gender identity or gender expression not matching one's assigned sex. Some transgender individuals are living or wishing to live with his/ her transformed sex identity.

7. 進路を視野に入れた履修

1 就職

大半の学生は、大学を卒業した後に、民間企業に就職する、あるいは公務員になるなどして働きます。日本の労働市場では、一般的には大学卒業予定者を対象に企業が採用活動を行う期間が設けられており、卒業予定者はこの期間中に企業の説明会に参加したり、面接を受けたりして、就職先を見つけます。この学生の活動は「就職活動」と呼ばれます。就職活動は3年生の後期あるいは4年生の前期に行われますが、それ以前に「インターンシップ」に参加することで、自分の関心のある業界を知り、就職活動に生かすことも重要です。

公務員には、主に中央省庁に勤務する国家公務員、地方行政組織（県庁や市役所）に勤務する地方公務員、あるいはこれら組織から独立した独立行政法人での勤務などがあります。国際公務員とは、国連やその関連機関の職員を指します。さらには、NGO や NPO 職員という非営利団体で勤務する選択肢もあります。

(1) インターンシップ

インターンシップ（就業体験）（以降インターンシップと表記）は、大学の在学中に企業や官公庁など実際の職場で、自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うことです。インターン先の選定方法やインターンの申込方法等については、就職・キャリア支援センターが毎年皆さんに配付する『キャリアデザインノート』に詳しく書かれていますので、そちらを参照してください。また、国際学部の専門科目である「国際キャリア教育」「International Career Seminar」や基盤教育科目のキャリア創造科目など、インターンシップに関連する科目が準備されていますので、積極的に履修してください。

なお、宇都宮大学は学生のキャリア形成および就職活動支援のため、【UU Career Navi】という就職支援システムを導入しています。さまざまな実施方法で行われるインターンシップについて、機を逃さず、応募できますので、ぜひ、【UU Career Navi】に登録をしてください。さらに、官公庁等でのインターンシップの多くは、大学を通して手続きをする必要があります。大学に募集案内がきたものについては、C-Learning 内「キャリアセンターからのお知らせ（●●年度）」に掲載します。最近では、インターンシップ参加においても、就職活動と同じような課題を課す企業が増えてきています。キャリアセンターでは、インターンシップに向けた各種セミナーの実施やキャリアアドバイザーによるキャリア相談も行っていますので、積極的に活用するとよいでしょう。

(2) 民間企業

近年では、民間企業の採用選考の早期化や通年採用などが進み、就職活動開始時期は様々に変更されており、なんとなく先輩の話を聞いても全く役に立たないということがあります。まずは上記の『キャリアデザインノート』を参照するか、基盤教育科目のキャリア教育系科目を履修し、1年生から少しずつ自分のキャリアについて考えていきましょう。また、就職・キャリア支援セ

ンターのホームページや【UU Career Navi】等をチェックして、キャリアフェスティバルや合同企業・公務員等セミナーをはじめ、学部1年生からでも参加可能なガイダンスやセミナーもあるので、これらに参加するなどして情報収集に努めてください。

就職・キャリア支援センター <https://www.utsunomiya-u.ac.jp/career/>

なお、国際学部で国際的な事柄を勉強しても、民間企業ですぐに海外事業部に配属されるとは限りません。新規採用であれば、一般的には最初の2年から3年は国内勤務を通じて様々な業務を覚え、その後に海外支店や海外事業に従事する機会がめぐってきます。日本の民間企業に就職して海外で働きたい人は、国内勤務が続いても「海外で働きたい」というアピールを常に上司や周囲の同僚に伝えておきましょう。

(3) 公務員

公務員には国家公務員、地方公務員、国際公務員の種類があります。国家公務員と地方公務員は、いずれも国内で採用試験を受け、合格する必要があります。試験の時期や勉強方法を事前にチェックし、学習計画を立てておきましょう。公務員試験についても、『キャリアデザインノート』が参考になりますから、よく読んでおきましょう。また、就職・キャリア支援センターでは、国家公務員及び地方公務員の模擬面接やキャリアアドバイザーによるキャリア相談などで支援しています。

国際協力機構 (JICA)、日本貿易振興機構 (JETRO)、国際交流基金といった独立行政法人の大半は国家公務員で構成されます。また、公的な機能をもっている一般的な役所や省庁とは異なる国際協力銀行 (JBIC) や成田国際空港株式会社などの特殊会社もあります。これらの組織の職員採用活動は個別に行われていますから、事前にそれぞれの組織の WEB サイトを調べ、採用情報を入手しておきましょう。

(4) 国際公務員

一般的に国際公務員になるためには、修士号の学位に加え、実務経験が求められます。国連やその関連組織であれば、国連公用語 (英語、ロシア語、フランス語、スペイン語、中国語、アラビア語) の少なくとも1言語で仕事ができることが求められ、2言語以上を求められる場合や、修得していると有利になる場合があります。ほとんどのポストが英語でのコミュニケーションを必要としますので、まずは英語の修得に励み、国際学部の科目には多くの言語が準備されていますから、早いうちから国際公用語を身につけておくと、国際機関での就職に役立てることができます。

実務経験は国際的な分野の業務経験である必要はなく、例えばプロジェクトマネージャーの求人では、民間企業でのプロジェクト運営経験も該当するなど、国内外問わずこれまでの経験が応募したポストで、どのように生かすことができるかが大事になります。つまり、国際公務員になるためには、実務経験と修士号の学位を得て初めて応募資格に適合することになりますので、長期的な計画が必要となります。例えば、学部を卒業した後に民間企業に就職して実務経験を得な

がら大学院で学び、修士号を獲得して国際公務員に応募する、などです。修士号の取得にあたっては、「進学」の項目でも詳しく説明しますが、指導教員とよく相談して計画をしっかりとるよう努めてください。

なお、日本政府は日本人の若手職員を国際機関に送り込むために、JPO (Junior Professional Officer) 制度を設け、日本人が国際機関で働く機会を提供しています。修士号や実務経験が求められる点は同様です。また、ネットワークを広げることも国際公務員としてのキャリアを構築するために必要不可欠です。国際関係でのインターンは通常、修士課程に進学している者を対象としていますが、いくつかの駐日事務所では学部生のインターンも受け入れているところもありますので該当機関の WEB サイトを定期的に確認してください。インターンの機会を活用したり、シンポジウムなどの公開イベントに参加するなどして、同じ志を持った仲間たちを見つけましょう。

JPO 派遣制度 <https://www.mofa-irc.go.jp/jpo/>

国連事務局が実施している一斉採用の試験もあります。国連事務局は、YPP (Young Professional Program) 若手職員採用のために毎年 1 回試験を実施しています。試験の合格者には、国連事務局の仕事が空席に応じて提供されます。近年は国連事務局に限らず、機関ごとに YPP を導入していますので、希望する機関の WEB サイトを確認してどのような「入り口」があるのか情報収集に努めることも大事です。

国連事務局 YPP <https://www.mofa-irc.go.jp/apply/ypp.html>

上記の JPO や国連事務局 YPP を除く国連やその関連機関は、日本の企業のように特定の時期に多くの新規採用職員を募集したり、あるいは日本の公務員の様に特定の時期に採用試験を実施したりしません。基本的には、前任者の退職に伴って空席が発生した時に、この空席を埋めるための募集が行われたり、あるいは特定のミッション (平和維持活動、選挙監視団、貧困削減計画など) がスタートすると、それに必要な人材が募集されます。日本の外務省が各機関の空席情報を取りまとめて公表していますから、関心のある方は日頃からチェックしてください。

外務省 国際機関人事センター <https://www.mofa-irc.go.jp>

また、国際公務員は、プロジェクトベースで仕事を行う事が多いため、契約期間が定められており、延長される場合もありますが、契約が満了となり新たなポストを探さなければならないこともあります。このため国際機関で働くひとは、数年ごとに勤務地を変えたり、仕事を変えたりすることもあります。これは終身雇用と呼ばれている制度とは異なる勤務形態ですが、国際的に見れば契約期間に成果を上げ、その実績をもって、より上級のポストを目指して転職活動することはよくあることです。自身の専門性を高めながら国際的なキャリアを形成するスタイルが、国際機関で働く職員の一般的な働き方になります。

2 進学

(1) 国内での進学

日本の大学院は、多くの場合秋と冬に募集を行います。大学院によって試験内容は異なりますし、場合によって試験はなく、提出書類の審査と面接のみの場合もあります。提出書類として、研究計画書や志望動機に加え、成績証明書や卒業見込み証明書などが求められる場合が多いので、事前に揃えておく必要があります。

大学院は学部以上に指導教員の研究内容と院生の研究内容が近くなる傾向にありますから、事前に希望する大学院を訪問し、教員の話聞いておくといよいでしょう。その際、自分の希望する研究内容を明確にしておき、教員に適切に説明できるようにしておく必要があります。

宇都宮大学大学院地域創生科学研究科では、年数回募集を行っています。進学を希望する場合には、早めに指導教員に相談しておきましょう。

(2) 海外の大学院への進学

海外の大学院では、一般的には日本で行われているような入学試験は課されず、入学の可否は申請書類で判断されます。多くの場合、願書、成績証明書、卒業証明書、志望動機書、言語能力を証明するもの（英語圏であればIELTSやTOEFL iBTなどのスコア）、推薦状、エッセイなどの提出が求められます。多くの大学院では、書類は提出された順に審査され、合格者が決定されます。このため、たとえ優れた書類を作成しても提出が遅ければ、すでに合格者が決定しているために空きがなく、不合格になります。募集が始まったらすぐに書類を提出できるように準備しておく必要があります。なお、近年ではこれらの書類はオンラインで提出する場合があります。詳しくは、希望する大学院のWEBサイトを参照してください。

志望動機書やエッセイは、進学したい大学院の教育内容と一致することが必要ですから、希望する大学院の教育内容を詳しく調査し、その大学院の教員の研究内容（論文や書籍）も詳しく調査しておきましょう。また、海外の大学院に進学する場合でも日本の大学院に進学する場合と同様に、まずは指導教員と連絡を取り、大学院での自分の研究について相談しておく必要があります。さらに、大学院での研究活動には、高い言語能力が求められます。このため、早くから言語学習に努めておきましょう。また、書類提出に間に合うように言語試験の日程を調べておきましょう。

合格通知を受け取った後は、留学に必要なビザを手配したり、入学必要書類を作成する必要があります。これらの書類は国や大学院によって異なるので、受験準備と合わせて、事前に調べておきましょう。

なお、海外の大学院に進学した場合、ビザの関係から渡航先で就労することは不可能だと考えてください。また大学院での授業は非常に厳しく、アルバイトする時間を取ることはほとんどできないでしょう。このため、大学院で学びながらアルバイトをして学費を稼ぐという選択肢は最初から排除したほうが無難です。博士後期課程に進み、必要な授業の履修を終えて博士論文の執筆のみが残されているような場合には、所属大学の学部生向けの授業を行うことで大学院の授業料の一部が免除されるような場合もありますが、こうした制度は大学によって異なりますから最

初からあてにはできません。留学先でも奨学金の募集が行われることもありますが、それらを期待するよりも、事前に必要な費用を準備しておくべきです。奨学金には多くの種類がありますが、留学先の国で分類すると、一例として以下のようなサイトを参照してください。

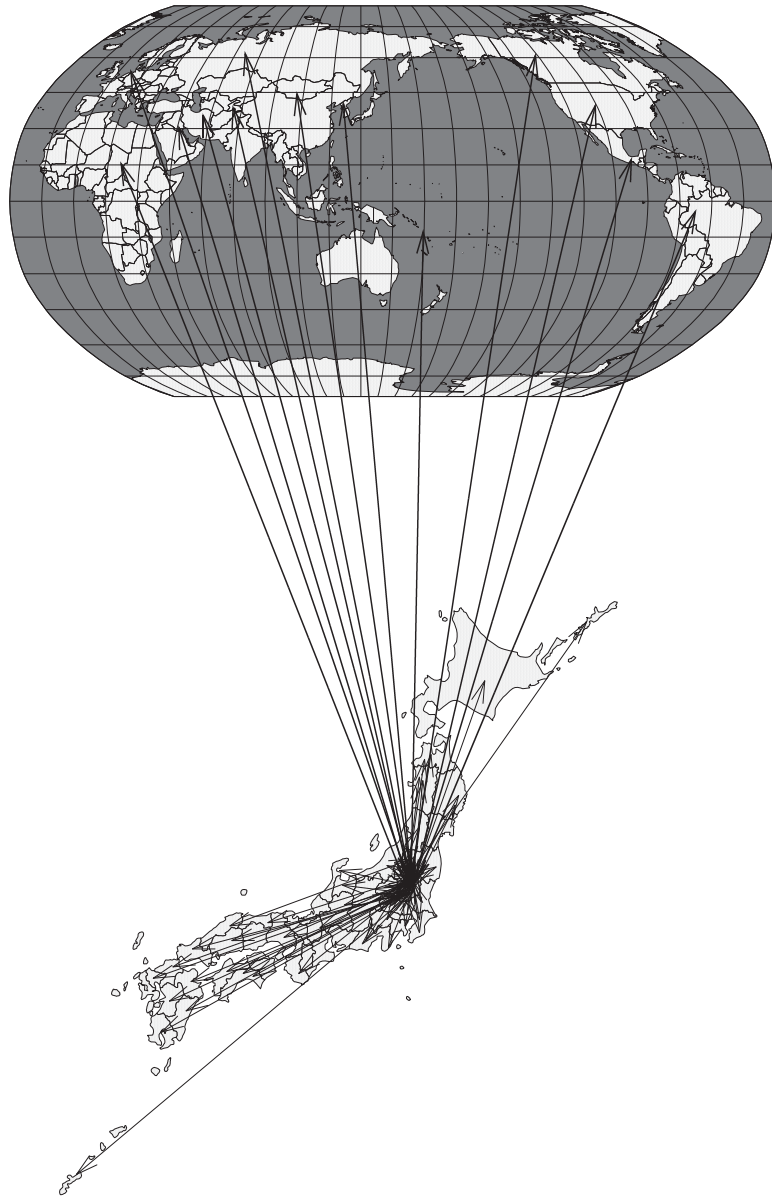
・アメリカ：フルブライト交流事業 (www.fullbright.jp/scholarship/index.html)

・EU：エラスムス・プラス (駐日欧州連合代表部内)

(https://eeas.europa.eu/delegations/japan/18702_ja)

・その他：海外留学支援サイト (日本学生支援機構)

(<https://ryugaku.jasso.go.jp/>)



作成：国際学部教務委員会
2026年 4月